

平成 1 7 年度

大分市美術館

年 報

目次

1. 運営方針	4
2. 沿革	5
3. 展覧会事業	6
3.1. 特別展	6
3.2. 常設展	23
3.3. サマー企画	35
3.4. 収蔵品小企画	39
3.5. 合併記念展	40
3.6. 大分市美術展覧会	41
4. 教育普及事業	42
4.1. ハイビジョンシステム	42
4.2. アートシアター	45
4.3. 芸術に親しむ講座	46
4.4. アートカレッジ	46
4.5. こども講座	47
4.6. サテライト鑑賞教室	49
4.7. 職場体験	50
4.8. ボランティア研修講座	51
4.9. ボランティア活動	52
4.10. 博物館実習	53
4.11. 各種刊行物	54
5. 資料収集事業	55
5.1. 美術品等収集事業	55
5.2. 平成17年度作品貸出実績	57
5.3. 図書	57
5.4. 映像資料	57
6. 管理運営	58
6.1. 職員数	58
6.2. 事務分掌	58
6.3. 利用状況	59
6.4. 建築設備概要	60
6.5. フロア別面積	62
6.6. 予算	63
6.7. 利用案内	63
6.8. 条例	64
6.9. 条例施行規則	64

7.	アートプラザ	65
7.1.	運営方針	65
7.2.	施設概要	65
7.3.	業務内容	65
7.4.	現代美術作品 大分市美術館所蔵 常設展示	67
7.5.	利用案内	68
7.6.	利用状況	68
7.7.	アートプラザ条例	69
7.8.	アートプラザ条例施行規則	69
7.9.	アートプラザ管理規則	69

1. 運営方針

大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ」美術館として、だれもが気軽に美術を楽しめる場と機会を提供している。年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できる常設展やさまざまな優れた分野の美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までが生涯学習の施設として「幅広く楽しむ」美術館の運営をめざしている。また、

- ① 豊後南画をはじめ、大分市にゆかりのある作家の優れた作品
- ② 美術史的展望に立ち、近・現代を中心とした芸術的に価値のある内外の作品
- ③ 将来方向として重視される環太平洋地域の美術についての作品
- ④ 歴史的文化遺産として貴重な美術資料

以上の方針に基づく収集保存活動をはじめとして、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、広報活動という5つの活動を通じて、幅広く芸術文化の振興につとめている。

2. 沿革

昭和 60(1985)年		展示用美術品の購入開始
昭和 62(1987)年	6 月	市長、6 月議会において、美術館建設を表明 教育委員会社会教育課を所管事務担当とする
昭和 63(1988)年	8 月	大分市美術館基本構想委員会設置(委員 15 名、会長高辰雄画伯)
平成元(1989)年	3 月	ハイビジョン・シティ構想(郵政省)のモデル都市指定を受ける
	9 月	大分市美術館基本構想委員会が大分市美術館基本構想を答申
平成 2(1990)年	2 月	大分市美術館建設委員会設置(委員 17 名、会長高山辰雄画伯)
	4 月	教育委員会庶務課に美術館建設事務従事を置く
	5 月	美術館建設予定地を上野丘陵地に決定 (第 2 回大分市美術館建設委員会)
	6 月	(仮称)大分市美術館美術作品収集委員会設置要綱制定(委員 9 名)
平成 3(1991)年	4 月	設計者を内井昭蔵建築設計事務所と決定 (指名 5 社プロポーザル方式、第 4 回大分市美術館建設委員会)
	9 月	上野丘公園が「平成記念子どものもり公園(建設省)」に指定される
	10 月	市長、「美術館建設計画の見直し」を発表
平成 5(1993)年	4 月	教育委員会文化振興課を所管事務担当とする
平成 6(1994)年	12 月	市長、定例記者会見で旧県立図書館(磯崎新氏設計)の大分市での有効活用を発表
平成 7(1995)年	4 月	旧県立図書館を大分市が無償貸与を受ける
	9 月	美術館基本・実施設計委託(内井昭蔵建築設計事務所)
	11 月	旧県立図書館(アートプラザ)整備工事設計委託(磯崎新アトリエ)
	12 月	美術館基本設計終了
平成 8(1996)年	4 月	教育委員会に美術館建設準備室を設置
	5 月	美術館実施設計完了
	9 月	美術館敷地造成工事着工 アートプラザ整備工事着工
	12 月	美術館敷地造成工事完成 美術館新築工事着工
平成 9(1997)年	9 月	「アートプラザ条例」制定
	10 月	アートプラザ整備工事完成
平成 10(1998)年	2 月	1 日、アートプラザ開館
	6 月	美術館本体工事完成
	9 月	美術館外構工事完成「大分市美術館条例」制定
	12 月	大分市美術館発足
平成 11(1999)年	2 月	17 日、開館
平成 12(2000)年	11 月	第 41 回建築業協会賞受賞
平成 14(2002)年	2 月	観覧者が 50 万人を超える
平成 16(2004)年	7 月	16 日、皇太子殿下行啓

3. 展覧会事業

3. 1. 特別展

3. 1. 1. 幻のロシア絵本 1920-30年代展

概要 ロシアでは、1920年代から30年代にかけて新しい国づくりの理想を背景に、子どもへの教育を重視した芸術家達が、ロシア・アヴァンギャルドの成果を盛り込んだ新鮮なデザインと言語感覚に彩られた絵本を生み出した。これらは、ロシア国内はもとより、パリ、ロンドンでも注目の的となり、20世紀絵本の流れを決定付ける役割を果たした。

本展ではこうした絵本に強い関心を持っていた20世紀日本を代表する画家、吉原治良らが所有していたロシア絵本の貴重なコレクションを中心とした約250冊と関連資料により、ロシア絵本の魅力とともにそれらの絵本が昭和初期の日本の芸術家たちに与えた影響について紹介した。

会期 平成17年7月15日（金）～9月11日（日）

主催 大分市美術館、読売新聞西部本社、美術館連絡協議会

後援 ロシア連邦大使館、ロシア国際文化科学協力センター、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

協賛 花王株式会社 **協力** 日本写真印刷株式会社

出品点数 絵本約250冊及び関連資料 **観覧者数** 11,759人

観覧料 一般800（600）円／高大生600（400）円、中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

関連行事 ■講演会

日時 7月17日（日） 14時～16時

講師 沼辺信一氏（監修者）

演題 ロシア絵本に魅せられた日本人 **参加者** 51人

■展示解説

日時 7月16日（土）、24日（日）、8月21日（日） 14時～

講師 沼辺信一氏（監修者・16日）、岡村暢哉（16日除く） **参加者** 106人

■ロシアアニメーション上映会

日時 7月18日（月）、24日（日）、31日（日）、8月7日（日）、14日（日）

11時～12時15分、13時30分～14時45分

内容 ロシア人形アニメーション『チェブラーシカ』4番組 **参加者** 941人

■参加プログラム（会場内）

絵本の結末を自由に想像し描いていく試み（市内小中学校対象）。応募作品は美術館に展示した。

印刷物 ・ ポスターB2 版 ・ チラシ A4 版 ・ ワークシート A5 版

関連記事 「20 世紀絵本の原点 幻のロシア絵本展」『読売新聞』6 月 29 日
 「幻のロシア絵本ずらり」『読売新聞(大分)』7 月 7 日
 「ロシア絵本続々と」『読売新聞(大分)』7 月 14 日
 「ロシア絵本に笑顔」『読売新聞(大分)』7 月 16 日
 武田順子「余響」『読売新聞(大分)』7 月 27 日
 岡村暢哉「幻のロシア絵本展①～⑤」『読売新聞(大分)』8 月 2 日～7 日
 菅章「幻のロシア絵本 1920～30 年代展に寄せて」『読売新聞』8 月 17 日

(担当 岡村)

プロローグ ロシア絵本の幕開け

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
a		イワン・ビリービン	麗しのワシリーサ	1902	32.3×25.6
b		イワン・ビリービン	イワン皇子、火の鳥と灰色オオカミの物語	1901	32.7×25.6
c	アレクサンドル・プーシキン	イワン・ビリービン	サルタン皇帝の物語	1907	25.4×32.4
d	ハンス・クリスチャン・アンデルセン	ムスチスラフ・ドブジンスキー	豚飼い王子	1922	30.2×23.5
e	ヴィルヘルム・ハウフ	ドミートリー・ミトロヒン	アルマンゾールの生涯	刊行年不明 (1913頃)	30.2×22.9
f	シャルル・ペロー	ウラジミール・コナシェーヴィチ	親指太郎	1923	30.0×22.9
g	ウォルト・ホイットマン	ヴェーラ・エルモラーエワ	開拓者たちよ	刊行年不明 (1918頃)	20.2×15.1
h		ウラジミール・レーベジェフ	ロシアの宣伝ポスター	1923	20.5×18.6

1.二人のウラジミール 絵本革命の旗手

1	ラドヤード・キプリング(文) サムイル・マルシャーク、コルネイ・ チュコフスキー(訳)	ウラジミール・レーベジェフ	子象	1922	27.9×21.6
2		ウラジミール・レーベジェフ	狩り	1925	27.5×22.0
3		ウラジミール・レーベジェフ	馬に乗って	刊行年不明 (1928頃)	23.4×29.2
4	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	サーカス	1925	28.7×21.8
5	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	プードル	1931	19.4×15.2
6	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	おろかな子ねずみ	1928[2版]	28.5×22.8
7	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	荷物	刊行年不明 (1927頃)[2版]	18.8×14.4
8	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	荷物	1931[6版]	19.9×14.5
9	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	昨日と今日	1931[5版]	28.8×22.2
10	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	しましまのおひげちゃん	1931[2版]	28.8×22.7
11	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	職場の表彰板	1931	22.5×17.9
12	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	外国人ペトルーシカ	1935[5版]	29.2×21.8
13	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	アイスクリーム	1929[3版]	27.5×21.7

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
14	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	何というぼんやり屋さん	1935〔10版〕	19.5×15.0
15	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	何というぼんやり屋さん	1931〔4版〕	19.3×15.0
16	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1932〔9版〕	22.3×18.9
17	サムイル・マルシャーク	ボリス・クストーージェフ(表紙) ウラジーミル・コナシェーヴィチ (絵)	火事	1926〔3版〕	27.6×21.9
18	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	バスケットの子猫	刊行年不明 (1929頃)	11.8×15.0
19	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	電話	1936〔10版〕	21.6×17.0
20	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	ワニカとワシカ	1925	30.2×22.8
21	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	リンポポ	1935	19.0×22.2
22	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	大きなゴキブリ	1935	18.7×22.3
23	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	フォーマとエリヨーマ	1930	14.3×11.6

2.小さな社会 子どもたちの暮らし

24	サムイル・マルシャーク	アレクセイ・パホーモフ	こわし名人	1931〔2版〕	20.1×15.1
25	L.エゴローフ、 L.ポレジャーエウ	バミヤトヌィフ 〔ニーナ・カーシナ〕	私たちは働く	1932	26.3×18.1
26	V.スミルノーワ	A.ペトローワ	私たちの上級生	1932	22.2×19.5
27	ニコライ・アセーエフ	ナタン・アリトマン	赤いネッカチーフの少年	1929〔2版〕	21.5×17.5
28	オリガ・ベルゴリツ	ニコライ・スヴィネンコ	ピオネールのキャンプ	1931	19.3×17.6
29	マルコ・ヴォロヌイ	エヴゲーニー・ラチョフ	赤いネクタイ	1930	23.2×16.8
30	N.マナセイナ	A.ソボロフ	お手伝い	1928	12.7×13.8
31	O.タリシナ	タチヤーナ・シェフチェンコ	ナターシャ	1927	16.8×16.8
32	アグニヤ・バルトー、O.グリヤン	G.ワシリーエフ	チムカの日	1930〔2版〕	28.9×22.4
33	レフ・ジロフ	A.スヴォーロフ	どのように一日を過ごしたか	刊行年不明	22.4×17.5
34	V.ミローヴィチ	V.ミローヴィチ	私たちの朝食	1926	28.5×21.5
35	サムイル・マルシャーク	ミハイル・ツェハノフスキー、 S.ペトローヴィチ(写真)	四つの結末	1938	21.5×17.0
36	E.シャーバト	ニーナ・カーシナ	はしご	1931〔2版〕	16.7×13.4
37	M.ソロヴィヨーフ	リジヤ・ポポーフ	マトリョーシカ	1930	16.0×13.5
38	フォードル・コンプラトフ	E.タラホフスカヤ	デパート	1930	21.9×18.9
39		P.ノーヴィコフ	スタジアム	1930	22.7×19.4
40	レフ・ジロフ	ヴェーラ・イワーノフ	おつり	1930	15.6×11.2
41	P.ノーヴィコフ	P.ノーヴィコフ	クロスカントリー	1932	14.8×20.1
42	レフ・カッシリ	F.コンプラトフ	ツェツペリン	1931〔2版〕	15.9×13.3
43	ジナイーダ・アレクサンドロフ	ヴェーラ・イワーノフ	小川の風	1932〔2版〕	18.0×13.2
44	エスフィリ・エムデン	タチヤーナ・レーベジェフ	塩	1930〔2版〕	15.6×13.3
45	O.コリチェフ	A.ゴンチャロフ	三つの歌	1933	22.3×19.8
46	アレクサンドル・コワレンスキー	I.フランツース	絵本	1928	14.7×19.4
47	リジヤ・ブドゴスカヤ	アレクセイ・パホーモフ	サーニカをどうやって幼稚園へ連れて行ったか	1933	30.3×21.9

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
48	ニーナ・サコンスカヤ	ダヴィート・シュテレンベルク	人形と本	1932	19.5×15.0
49	ダニイル・ハルムス	ヴェーラ・エルモラーエワ	イワン・イワーヌイチ・サモワール	1929	22.2×18.0
50	ウラジーミル・マヤコフスキー	ナターリヤ・ウシャコーワ	怠け者ヴラスの物語	刊行年不明 (1927頃)	29.8×23.0
51	コルネイ・チュコフスキー	ユーリー・アンネンコフ	しっかり洗え	1933[17版]	28.9×21.3
52	アグニヤ・バルトー、 パーヴェル・バルトー	ヴェーラ・イワノワ	汚れた女の子	1932[3版]	15.0×13.0
53	レオニード・ボリーソフ	ユーリー・チェルケーソフ	間抜けなコンロ	1925	27.7×21.7
54	V.ミローヴィチ	ナターリヤ・ウシャコーワ	ぴよんぴよんボール	1926	29.5×21.8
55	V.ミローヴィチ	ニーナ・カーシナ	ぴよんぴよんボール	1930	19.7×14.5
56	コルネイ・チュコフスキー	V.トワルドフスキー	あわれなフェドーラ	刊行年不明 (1928頃)[5版]	28.6×22.4

3.楽しい知識 身の回りから学ぶ

57	A.オルスーフィエワ	リジヤ・ポポーフ	おもちゃ	1928	19.6×14.5
58	レフ・ユージン、 ヴェーラ・エルモラーエワ	レフ・ユージン、 ヴェーラ・エルモラーエワ	紙とハサミ	1931	16.9×12.7
59	V.スミルノフ	ゲオルギー・エチュイストフ	おもちゃの話	1932	28.5×22.7
60	M.パンコーフ	M.パンコーフ	水車	1932[2版]	15.2×13.4
61	ニーナ・サコンスカヤ、 E.ウリリフ	マリヤ・シニャコーワ	手作りおもちゃショー	1932	19.0×14.8
62	M.パンコーフ	B.ニキーフォロフ、 リジヤ・ポポーフ	風車小屋	1932[2版]	18.5×13.3
63	ニーナ・サコンスカヤ	リジヤ・ポポーフ	四つの色について	1930[3版]	22.8×19.3
64	アンナ・プラヴジナ	アンナ・プラヴジナ	子どもと鉛筆	1933[2版]	18.4×13.0
65	K.ロモヴィツキー	K.ロモヴィツキー	三原色	1931	15.2×11.4
66	K.ロモヴィツキー	K.ロモヴィツキー	色の課題	1931	11.9×14.5
67	ニコライ・トローシン、 オリガ・デイネコ	ニコライ・トローシン、 オリガ・デイネコ	ぬり絵をしよう	1931	14.8×20.7
68	アレクサンドル・グローモフ	アレクサンドル・グローモフ	型版	1931	18.9×17.9
69	E.ゾンネンシトラーリ、 コンスタンチン・クズネツォフ	E.ゾンネンシトラーリ、 コンスタンチン・クズネツォフ	印刷工	1932	19.1×14.7
70	サムイル・マルシャーク	ドミートリー・ミトロヘン	本についての本	1935[5版]	22.0×17.0
71	E.ミキーニ	アンナ・プラヴジナ	本の住む家	1932	26.2×18.4
72		リジヤ・ポポーフ	美食家たち	1930	22.1×19.0
73		ダヴィート・シュテレンベルク	食器	1930	14.6×13.0
74	D.チェトベリコフ	ドミートリー・ミトロヘン	おじいさんの工芸屋	1925	26.0×20.1
75	サムイル・マルシャーク	タチャーナ・グレーボワ	マストと翼	1931	19.5×17.6
76	N.スミルノフ	ガリーナ・チチャーゴワ、 オリガ・チチャーゴワ	食器はどこから？	1924	25.7×21.5
77	アレクサンドル・ ヴヴェジェンスキー	レフ・ユージン	だあれ？	1931[2版]	22.3×19.0
78	エヴゲーニー・シュワルツ	エヴゲーニヤ・エヴァンパフ	どっちが速いか	1928	29.1×22.6
79	ニーナ・エフィーモワ	イワン・エフィーモフ	取り替えっこ:影絵芝居	1929	29.1×22.6
80	コルネイ・チュコフスキー	ワレリー・アルフェエフスキー	新しいなぞなぞ	1931[2版]	15.3×13.4
81	V.グリユンタリ、 G.ヤブロノフスキー		これは何でしょう？	1932	17.5×23.7

4.働く人々 労働と生産

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
82	N.アイラクトルスカヤ	アレクセイ・ウスペンスキー	菜園の人々について	1926	27.6×21.7
83	ニコライ・セヴェーリン	F.チホミーロフ	クルミの調査隊	1931	22.5×19.3
84	執筆者不明	ピョートル・ミトゥーリチ	ミチューリンの栽培園	1931	19.6×14.9
85	ワシュートキン	アンナ・ポロフスカヤ	エンドウ豆	1930	15.8×12.9
86	ナタン・ヴェングロフ	リジヤ・ポポーワ	農作業	1930[2版]	14.3×11.4
87	ダヴィード・シュテレンベルク	ダヴィート・シュテレンベルク	お茶	1931	22.0×19.3
88	A.マルコフ	A.ゴンチャローフ	陶器についての手紙	1931	19.9×14.9
89	アレクサンドル・ヴヴェジェンスキー	ヴェーラ・エルモラーエワ	漁師たち	1930	22.7×19.3
90	ミハイル・イリイン	エヴゲーニヤ・エヴァンバフ	革	1930[3版]	19.8×14.9
91	V.ザクラドナヤ	V.ザクラドナヤ(写真)	精肉場	1932[2版]	16.5×22.0
92	サムイル・マルシャーク	ミハイル・ツェハノフスキー	郵便	刊行不明 (1927頃)	21.5×18.6
93	アグニヤ・バルトー	F.シュテルンベルク、N.ギッピウス	郵便屋さんがドアをたたく	1932	18.5×13.3
94	ウラジーミル・タンビ	ウラジーミル・タンビ	自動車	1930	22.5×19.0
95	ブリリエフ	ウラジーミル・タンビ	擬装	1930	22.5×18.9
96	ウラジーミル・タンビ	ウラジーミル・タンビ	軍艦	1929	22.1×18.7
97	ブリリエフ	ウラジーミル・タンビ	潜水艦	1930	22.7×19.3
98		アレクサンドル・デイネカ	雲のなかで	1930	22.5×19.3
99	E.ハーゲン	ニソン・シフリン	石油	1931	28.7×21.8
100	S.ポローチン	ワジム・コンスタンチーノフ	緑の金(燐灰石)	1931	19.0×22.7
101		ボリス・エルモレンコ	特別な服	1930	23.2×16.5
102	ウラジーミル・マヤコフスキー	ニソン・シフリン	何になるか?	1932[4版]	22.2×19.8

5.世界は広い 風土と民族

103	イリーナ・カルナウホフ、 エステル・パベルナヤ	アリーサ・ポレート	これは誰のおもちゃ?	1930	22.3×19.2
104	アグニヤ・バルトー	ゲオルギー・エチュイストフ	小さな兄弟たち	1932[5版]	22.2×19.1
105	N.ポスペーロワ	ボリス・ポクロフスキー	さまざまな民族の子どもたち	刊行不明	21.6×19.3
106	S.シェルヴィンスキー	G.レーヴィン	アザラシのチューリヤ	1928	19.0×14.4
107	O.グリヤン	アンナ・ポロフスカヤ	北方	刊行不明 (1927頃)	28.6×23.0
108	O.グリヤン	P.スタロノーソフ	金の尾	1931[2版]	21.8×17.4
109	ミハイル・ルデルマン	アンナ・ポロフスカヤ、 L.エリセーエヴニナヤ	北の五月	1933	22.2×19.6
110	I.ポリャンスカヤ	K.コズロワ	カザクスタン行き列車	1931	16.0×13.5
111	M.ランコフ、E.ロドワ	M.ランコフ、E.ロドワ	トルキスタンの綿花	1931	19.2×14.7
112	レフ・ブルーニ	レフ・ブルーニ	私たちの熱帯	1931	19.2×14.8
113	N.シェル	A.ゴンチャローフ	ジャニクとキリュウシヤ	1932[2版]	21.9×19.0
114	S.シェルビンスキー	リジヤ・ジョルトケーヴィチ	オレンジの話	1930[2版]	22.0×18.5

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
115	アレクサンドル・ヴヴェジェンスキー	タチャーナ・グレーボワ	バトゥームへの旅	1931	12.6×17.2
116	A.ゲーリナ	アレクサンドル・モギレフスキー	アラブの少年ハッサン	1932[2版]	21.9×18.9
117	ニコライ・アグニフツェフ	サムイル・アドリヴァンキン	ちっちゃな黒人の坊や	刊行不明	30.0×23.0
118	Yu.ワルシャフスキー	ユーリー・ペトローフ	ミスター・スミス	1931	19.6×14.5
119	O.グリヤン	ダヴィート・シュテレンベルク	ガルとムガトウ:黒人の子どもたち	1928	22.7×19.5
120	コルネイ・チュコフスキー	ムスチスラフ・ドブジンスキー	バルマレイ	1925	27.8×22.0
121	ラドヤード・キプリング(詩) サムイル・マルシャーク(訳)	ダヴィート・シュテレンベルク	北緯40度西経50度	1931	22.5×19.3
122	A.レイフェルト、Ya.メクシン	アレクサンドル・モギレフスキー	長い名前	1929	19.8×14.6
123	ウラジーミル・ピヤスト	K.ユシチェンコ	セミと鶉	1929	27.4×22.0
124	O.ステシェンコ	イワン・キシル	お茶	刊行不明 (1929頃)	16.4×12.8
125	F.フェドートフ	タチャーナ・ズヴォナリョーワ	モンゴル	1932	22.2×19.1

6.命をはぐくむ自然 動物たちの生態

126		エヴゲーニー・チャルーシン	いろいろな動物	1931[2版]	19.4×14.6
127		エヴゲーニー・チャルーシン	自由な鳥たち	1931[2版]	19.7×15.2
128	ヴィターリー・ビアンキ	ニコライ・ティルサ	雪の本	1926	27.2×20.1
129	ヴィターリー・ビアンキ	エヴゲーニー・チャルーシン	巣穴	1931[3版]	22.6×19.1
130	レスニーク	ニーナ・コーガン	冬と夏	1931	19.1×14.9
131	レスニーク	ニーナ・コーガン	沼の鳥	1931	19.5×14.9
132	ヴィターリー・ビアンキ	ニコライ・ティルサ	森の家	1934[3版]	28.3×22.0
133	ヴィターリー・ビアンキ	ユーリー・ワスネツォーフ	沼	1931	22.9×19.2
134	M.ベケートワ	エドゥアルト・クリンメル	飛んで行け	1928	19.4×14.8
135	エヴゲーニー・シュワルツ	テオドール・ペヴズネル	鳥の庭	1931	19.9×14.5
136	ヴィターリー・ビアンキ	ビョートル・ミトゥーリチ、 ヴェーラ・フレープニコワ=ミトゥーリチ	最初の狩り	刊行不明 (1928頃)	28.6×22.5
137	O.タリシナ	V.ワターギン	家畜	1933	22.4×19.4
138	M.ドン	アンドレイ・ブレイ	ウサギについての歌	1932	22.4×19.4
139	ソフィヤ・フェドルチェンコ	ニコライ・クプレヤーノフ	ウサギ	1930	10.9×12.9
140	サムイル・マルシャーク	エヴゲーニー・チャルーシン	檻のなかの子どもたち	1936[2版]	27.9×21.9
141	エヴゲーニー・チャルーシン	エヴゲーニー・チャルーシン	暑い国の動物たち	1935	28.1×22.2
142	S.シエルヴィンスキー	レフ・ブルーニ	動物園	1927	28.7×22.4
143	ダニイル・ハルムス	ウラジーミル・タトリン	まず第一に、そして第二に	1929	27.0×20.0
144	アレクセイ・トルストイ	ナターリヤ・イズナル	小さなねずみ:童話	1930	15.5×13.4
145	コルネイ・チュコフスキー	セルゲイ・チェホーニン	大きなゴキブリ	1923[3版]	30.0×22.7
146	ヴィクトル・シクロフスキー	タチャーナ・レーベジェワ	影の話	1931	19.8×15.2
147	ミハイル・ゾシチェンコ	ナタン・アリトマン	賢い動物たち	1939	28.5×21.8
148	コルネイ・チュコフスキー	ユーリー・ワスネツォーフ	大さわぎ	1934	19.2×14.9

7 私たちの国 過去から未来へ

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
149	ナタン・ヴェングロフ	ゲオルギー・トゥガーノフ	祝日	1930	10.8×12.8
150	アグニヤ・バルトー他	アレクセイ・ラプチェフ他	五月	1932	22.2×19.6
151	M.ドゥビヤンスカヤ	パーヴェル・バスマノフ	愛鳥の日	1931	17.4×12.8
152		アレクサンドル・デイネカ	赤軍のパレード	1931[2版]	22.6×19.1
153	アレクサンドル・ウヴェジェンスキー	ワレンチン・クルドフ	ブジョーヌイ元帥の騎兵隊	1931	22.5×19.8
154	執筆者不明	ニコライ・クブレヤノフ	アンドレ・マルティ	1930	19.3×23.0
155	Ya.ミレル	タチヤーナ・グレーボワ	いかにわれわれはユデニチを倒したか	1930	22.5×19.5
156	サムイル・マルシャーク	ククルイニクスィ	サメ、ハイエナ、オオカミ	1938	28.3×22.1
157	I.ホロドフ	I.ホロドフ	極東特殊部隊	1932	22.7×19.5
158		P.ノーヴィコフ	軍のスキー部隊	1931	14.9×20.0
159	ミハイル・ルデルマン	S.ボイム、B.スハーノフ	巡洋艦で	1932	22.2×19.5
160	I.コルシチノフ、A.ノトキナ	G.ペトローワ	防衛の準備あれ	1931	20.1×18.0
161	エステル・パベルナヤ	アリーサ・ポレート、L.カプستن	どのように町を造ったか	1932	22.7×19.0
162	ナタン・ヴェングロフ	ニソン・シフリン	十月っ子	1930	22.2×19.2
163	B.エヴゲーニエフ	レオニード・ガンブルゲル	五カ年計画	1930	23.3×16.4
164	サムイル・マルシャーク	グリゴリー・ビビコフ	ドニエプル川との闘い	1931	21.9×17.5
165	オリガ・グローモワ	A.ヴォルコーヴィチ	ドニプレリスタン	刊行不明	25.4×17.7
166	ミハイル・アンドレーエフ	V.トワルドフスキー	二人の兄弟	1925	27.9×21.6
167	執筆者不明	アレクセイ・ラプチェフ	五カ年計画	1930	19.7×18.0
168	ウラジーミル・マヤコフスキー	ボリス・ポクロフスキー	海と灯台についての私の本	1927	29.5×23.5

エピローグ そして誰もいなくなった

i	サムイル・マルシャーク	アレクセイ・パホーモフ	学校の仲間	1937	28.7×22.0
j	ウラジーミル・マヤコフスキー	アレクセイ・パホーモフ	何になるか?	1948	29.9×22.8
k.1	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1932[9版]	22.3×18.9
k.2	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1941	13.8×11.0
k.3	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1945	8.6×6.0
l.1	執筆者不明	V.アヴェーリン	キツネと鶴	1945	10.4×6.5
l.2	シャルル・ペロー	V.タウベル	赤ずきん	1945	10.5×6.7
l.3	執筆者不明	V.アヴェーリン	おちびさんたち	1945	10.5×6.7
l.4	Yu.フィドレル	フラトキン	動物たちのスポーツ	1945	10.7×6.6
l.5	セルゲイ・ミハルコフ	I.クズネツォフ	私と友だち	1945	10.5×6.7
l.6	執筆者不明	V.アヴェーリン	丸パン	1945	10.5×6.5
l.7	執筆者不明	V.アヴェーリン	カザフスタン山地で	1945	10.4×6.7
l.8	コルネイ・チュコフスキー	A.カネフスキー	しっかり洗え	1945	10.4×6.5
m	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	十二月(森は生きている)	1952	28.1×22.2
n	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	おろかな子ねずみ	1953	28.8×22.2
o	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	しましまのおひげちゃん	1954	27.9×22.4

3. 1. 2. 戦後大分の美術Ⅱ 大分前衛美術会／7人の会

－その軌跡をたどって

概要 アンフォルメル旋風が吹き荒れた1950年代が終わり、1960年代初頭には、ヌーボー・レアリズムあるいはネオ・ダダと呼ばれる前衛芸術運動が起こり、さらにポップ・アートなどに見られる新たな具象的傾向が台頭した。また幾何学的抽象の復活など、抽象芸術自身も変質を遂げ、戦後芸術はまさに転換期を迎えた。

本展では、こうした国際的規模における美術界の動向に敏感に反応しつつ、大分を主舞台にして、1960年から1966年まで活動した「大分前衛美術会」、1967年から1972年まで活動した「7人の会」の活動状況を明らかにすることにより、当時エネルギーに展開した大分の美術界の状況を紹介した。

また、当時の作家たちの、その後の活動も併せて紹介し、彼らの活動が県画壇でどのような役割を演じてきたかを展覧した。

会期 平成17年9月21日(水)～11月7日(月)

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

出品点数 92点

観覧者数 3,653人

観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

関連行事 ■リレー講演会(6回)

日時 9月21日(水) 14時～15時30分 講師 三浦勉(画家)

演題 7人の会について 参加者 57人

日時 9月25日(日) 14時～15時30分

講師 脇正人(画家/自由美術協会会員)

演題 大分前衛美術会について 参加者 52人

日時 10月1日(土) 14時～15時30分

講師 児玉成弘(画家/行動美術協会会員)

演題 7人の会について 参加者 72人

日時 10月7日(金) 14時～15時30分

講師 十時良(画家/自由美術協会会員)

演題 大分前衛美術会について 参加者 32人

日時 10月15日(土) 14時～15時30分 講師 井上佐之助(美術家)

演題 7人の会について 参加者 62人

日時 10月28日(金) 14時～15時30分

講 師 渡辺恭英(画家/県美術協会会長)

演 題 60年代当時における大分県美術協会の状況について 参加者 88人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版・図録(29×22cm)

関連記事 「大分の前衛美術 戦後の足跡回顧」『西日本新聞』9月15日

「県内美術家集団の軌跡」『読売新聞』9月22日

「三浦勉氏・脇正人氏 講演会」『大分合同新聞』9月29日

「児玉成弘氏・十時良氏 講演会」『大分合同新聞』10月17日

「井上佐之助氏・渡辺恭英氏 講演会」『大分合同新聞』11月3日

(担当 大神)

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	三浦勉	荊の塔	1958	150.3×61	油彩、板
2	三浦勉	行人	1959	150.5×65.5	油彩、キャンバス
3	岩尾秀樹	並ぶ	1960	78.5×116.5	〃
4	三浦勉	目のある風景	1962	116.7×72.7	〃
5	岩尾秀樹	蠅螂	1963	97×130.3	〃
6	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
7	江藤明	炸	1962	117.×91.0	〃
8	脇正人	人	1959	65.5×91.5	〃
9	江藤明	翔	1959	89.4×130.3	〃
10	江藤明	黎	1961	97×145.5	〃
11	神田千里	並ぶ人	1962	90.9×116.7	〃
12	安藤真	湖の朝	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
13	江藤明	化景1	1964	162.1×112.1	〃
14	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
15	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
16	井上佐之助	作品	1963	162.1×130.3	〃
17	神田千里	家族	1965	116.7×90.9	〃
18	十時良	生きものの風景	1965	130.3×97	〃
19	十時良	生きものによる	1966	130.3×97	〃
20	二宮秀夫	あけぼの	1965	145.5×97	油彩、板
21	脇正人	作品	1968	60.5×73	油彩、キャンバス
22	岩尾秀樹	群像・黒	1969	80.3×100	〃
23	二宮秀夫	かに	1967	162.1×130.3	〃
24	廣瀬通秀	寓話1	1968	227.3×181.8	〃
25	廣瀬通秀	寓話2	1968	227.3×181.8	〃
26	岩尾秀樹	像2	1968-1969	90.9×72.7	〃
27	岩尾秀樹	像Ⅲ	1968-1969	60.6×72.7	〃
28	岩尾秀樹	群像(白)	1968	162.1×130.3	〃
29	三浦勉	出陣	1969	90.9×72.7	〃
30	二宮秀夫	作品B	1971	130.3×227.3	〃

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
31	渡辺恭英	0の周辺V	1969	162.1×130.3	油彩、キャンバス
32	神田千里	家族2	1969	90.9×116.7	〃
33	井上佐之助	レジャープロジェクト2	1968	162.1×130.3	〃
34	井上佐之助	VENUS・PROJECT2	1970	162.1×130.3	〃
35	渡辺恭英	GATE No. 9	1972	162.1×130.3	〃
36	脇正人	人(I)	1971-1972	112.1×145.5	〃
37	新名隆男	BUDDHIST	1968	40×15×15	木材
38	渡辺恭英	黒の座標Ⅲ	1970	162.1×130.3	油彩、キャンバス
39	井上佐之助	マイアフリカ	1971	43.5×63	モノプリント
40	二宮秀夫	作品B	1971	227.3×130.3	油彩、キャンバス
41	脇正人	ひと	1971-1972	80.3×60.3	〃
42	脇正人	人(Ⅱ)	1971-1972	112.1×145.5	〃
43	飯尾寿夫	植物Ⅱ	1972	162.1×130.3	〃
44	飯尾寿夫	予兆	1970	130.3×162.1	〃
45	新名隆男	フィッシュ	1966	60×40×30	光学ガラス
46	西村駿一	南より	1971	130.3×162.1	油彩、キャンバス
47	西村駿一	地のうた	1972	130.3×162.1	〃
48	安藤真	昼下がりの風	2003	116.7×116.7	〃
49	安藤真	風の周辺1	2004	116.7×116.7	〃
50	安藤真	風の周辺2	2005	116.7×116.7	〃
51	飯尾寿夫	アトリエ寓話(E)	1998	162.1×227.3	〃
52	飯尾寿夫	アトリエ寓話(漂)	2001	162.1×227.3	〃
53	飯尾寿夫	アトリエ寓話D	2004	227.3×162.1	〃
54	井上佐之助	作品1	2005	57.5×68	フォトコラージュ
55	井上佐之助	作品2	2005	58×68	〃
56	岩尾秀樹	海景	1997	130.3×162.1	油彩、キャンバス
57	岩尾秀樹	おまえⅠ	1987	91.5×91.5	〃
58	岩尾秀樹	おまえⅡ	1987	91.5×91.5	〃
59	岩尾秀樹	風景	1982	162.1×130.3	〃
60	江藤明	MY SPACE・90	1990	194×162	〃
61	江藤明	記憶・97	1997	162.1×162.1	〃
62	江藤明	待っている場所	2004	194×162	〃
63	神田千里	手の風景A	1989	112.1×145.5	〃
64	神田千里	連鎖する形	1982	112.1×145.5	〃
65	神田千里	裸婦のある風景	1980	112.1×145.5	〃
66	児玉成弘	視界2002-7	2002	193.9×259.1	〃
67	児玉成弘	街角1991-7	1991	181.8×227.3	〃
68	児玉成弘	街角1987-1	1987	181.8×227.3	〃
69	十時良	疲労する風景97-10	1997	162.1×162.1	〃
70	十時良	地表の風94-6	1994	162.1×162.1	〃
71	十時良	見えない風01-B	2001	162.1×162.1	〃
72	新名隆男	神	1982	90×25×25	アクリル、真鍮

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
73	新名隆男	風景と水	2004	70×40×20 90×42×20	アクリル
74	西村駿一	ふるさと'03	2003	162.1×130.3	油彩、キャンバス
75	西村駿一	ふるさと'04	2004	162.1×130.3	〃
76	西村駿一	ふるさと'05	2005	162.1×130.3	〃
77	二宮秀夫	人	1982	181.8×227.3	〃
78	二宮秀夫	人(Ⅲ)	1983	181.8×227.3	〃
79	二宮秀夫	港	1974	181.8×227.3	〃
80	廣瀬通秀	雲雀	1999	193.9×162.1	〃
81	廣瀬通秀	説く人	2003	193.9×162.1	〃
82	廣瀬通秀	ねがい	2004	193.9×162.1	〃
83	三浦勉	マスクABCD	2003	各45.5×37.9 (4点セット)	アクリル、キャンバス
84	三浦勉	マスクA' B' C' D'	2003	各45.5×37.9 (4点セット)	〃
85	三浦勉	野火	2003	72.7×60.6	〃
86	三浦勉	何処へ	2003	60.6×72.7	〃
87	脇正人	コンポジションB	1986	145.5×112.1	油彩、キャンバス
88	脇正人	89作品(5)	1989	130.3×130.3	〃
89	脇正人	89作品(6)	1989	130.3×130.3	〃
90	渡辺恭英	二筋の...	1990	194×162	〃
91	渡辺恭英	煬象Ⅱ	1997	194×162	アクリル、カーボン、 板、和紙
92	渡辺恭英	いのちⅣ	2001	194×162	〃

3. 1. 3. 近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ

～静岡県立美術館所蔵品による～

概要 本展は日本近世絵画の優れたコレクションで知られる、静岡県立美術館所蔵の名品約40点によって、(Ⅰ)室町・桃山時代の狩野派(Ⅱ)狩野探幽と江戸狩野の系譜(Ⅲ)京都の狩野派(Ⅳ)狩野派から近代日本画へ(Ⅴ)百花繚乱の江戸絵画の5つのテーマに分けて日本近世絵画の流れを包括的に紹介した。

会期 平成17年11月18日(金)～12月25日(日)

主催 大分市美術館、静岡県立美術館 大分合同新聞社

後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

出品点数 44点

観覧者数 4,701人

観覧料 一般1,000(800)円／高大生700(500)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

関連行事 ■講演会

日時 平成17年12月3日(土) 14時～15時30分

講師 山下善也氏(静岡県立美術館 主任学芸員)

演題 絵画の旅－狩野派発、若冲行 参加者 95人

■展示解説

日時 11月23日(水)、12月18日(日) 14時～

担当 野田菜生子 参加者 61人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版・鑑賞の手引きA4版

関連記事 野田菜生子「近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ－上、中、下」

『大分合同新聞』夕刊11月24日～26日

野田菜生子「伊藤若冲 樹花鳥獸図屏風」『西日本新聞』10月29日

(担当 野田)

第1章 近世絵画の源流——安土・桃山の狩野派

No.	作者名	作品名	員数	素材・技法	制作年	前期	後期
1	初期狩野派	四季花鳥図屏風	六曲一双	紙本着色	室町末期(16世紀中頃)	○	○
2	狩野重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風	六曲一双	紙本金地着色	桃山時代(17世紀初)	○	○
3	海北友松	禅宗祖師・散聖図屏風	六曲一双	紙本墨画	1613(慶長18)	○	○
4	狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図	一幅	紙本墨画淡彩	17世紀(江戸初期)	○	○
5	狩野山雪	富士三保松原図屏風	六曲一双	紙本墨画金泥引	17世紀前半(江戸初期)	○	○

第2章 天下人の御用絵師——江戸狩野

6	狩野探幽	七賢九老図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	1639~42(寛永16~19)	○	
7	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	六曲一隻	紙本金地着色	1657~61(明暦3~万治4)	○	○
8	狩野探幽	富士山図	一幅	紙本墨画淡彩	1667(寛文7)	○	○
9	狩野探幽	白 図	一幅	絹本着色	1661頃(寛文元頃)	○	○
10	狩野尚信	西湖図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	17世紀前半(江戸初期)		○
11	狩野安信	猿曳き・酔舞図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	17世紀中頃(江戸初期)	右隻	左隻
12	狩野常信	波濤・花鳥図屏風	六曲一双	紙本着色金泥	1704~09(宝永1~6)	○	
13	英一蝶	琴高仙人図	一幅	紙本墨画淡彩	17世紀後半(江戸初期)	○	○
14	狩野探信	井手玉川・佐野渡図屏風	六曲一双	紙本着色	17世紀後半~18世紀初(江戸前期)		○
15	狩野周信	蓮池鷺図	一幅	絹本着色	17世紀末~18世紀初(江戸前期)	○	○

第3章 京都の狩野派

16	狩野永納	蘭亭曲水図屏風	六曲一双	紙本金地着色	17世紀後半(江戸初期)	○	○
17	狩野永納	三教図	一幅	絹本着色金泥	1652(承応元)	○	○
18	山本探川	宇津の山図屏風	二曲一隻	紙本着色	1755~69(宝暦5~明和6)	○	○
19	石田幽汀	群鶴図屏風	六曲一双	紙本金地着色	18世紀(江戸中期)	○	○
20	狩野永良	親子犬図	一幅	絹本着色	18世紀後半(江戸中期)	○	○

第4章 御用絵師たちの系譜——近世から近代へ

21	狩野典信	山水図	一幅	絹本墨画金泥	1762~80(宝暦12~安永9)	○	○
22	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	一卷	紙本着色	1781~94(天明1~寛政6)	○	○
23	狩野惟信	山水図押絵貼屏風	六曲一隻	紙本墨画着色	1781~94(天明1~寛政6)	○	○
24	狩野栄信	百猿図	一幅	絹本着色	1802~16(享和2~文化13)		○
25	狩野栄信	楼閣山水図屏風	二曲一隻	絹本着色	1802~16(享和2~文化13)	○	○
26	狩野永岳	富士山登龍図	一幅	絹本墨画	1852(嘉永5)	○	○
27	狩野養信	竹雀図屏風	六曲一双	紙本金地着色	1834~46(天保5~弘化3)	○	
28	狩野永祥	山水図屏風	六曲一双	紙本墨画	19世紀後半(明治初期)		○
29	狩野芳崖	寿老人図	一幅	紙本墨画淡彩	1881~85頃(明治14~18頃)	○	○
30	橋本雅邦	三井寺	一幅	紙本着色	1894(明治27)	○	○

第5章 百花繚乱の江戸絵画

31	土佐光起	秋草鶉図	一幅	絹本着色	17世紀中頃(江戸初期)	○	○
32	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	一面	絹本油彩	1799(寛政11)	○	○
33	原在中	富士三保松原図	一幅	絹本着色	1882(文政5)	○	○
34	池大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図屏風 ※重要文化財	六曲一双	紙本着色	1763(宝暦13)	○	○
35	池玉瀾	溪亭吟詩図	一幅	紙本墨画着色	18世紀(江戸中期)	○	
36	谷文晁	連山春色図	一幅	絹本着色	1797(寛政9)	○	

No.	作者名	作品名	員数	素材・技法	制作年	前期	後期
37	浦上春琴	競秀争流図	一幅	絹本着色	1830(文政13)		○
38	中林竹洞	傲董源山水図	一幅	絹本墨画	1843頃(天保14頃)		○
39	円山応挙	木賊兔図	一幅	絹本着色	1786(天明6)	○	○
40	呉春	柳陰帰漁図屏風	二曲一隻	紙本墨画淡彩	1783(天明3)	○	○
41	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	一幅	絹本着色	1793~99(寛政5~11)	○	○
42	長沢蘆雪	大原女	一幅	絹本着色	1793頃(寛政5頃)	○	○
43	酒井抱一	月夜楓図	一幅	絹本墨画	1817~28(文化14~文政11)	○	○
44	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	六曲一双	紙本着色	18世紀後半(江戸後期)	○	○

※展示替 前期展示：11月18日～12月5日 後期展示：12月7日～12月25日

3. 1. 4. 写実主義の巨匠 クールベ美術館展

概要 本展は、クールベの初期から晩年にかけての風景画を中心に、人物画さらには同時代の画家との共同制作作品、クールベを敬愛した画家たちの作品、また、関係資料を加え、写実主義の巨匠クールベの画業の全貌を紹介した。。

会期 平成 18 年 1 月 7 日(土)～3 月 21 日(火)

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 フランス大使館、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

企画協力 IS ART INC.

出品点数 78 点

観覧者数 12,105 人

観覧料 一般 800 (600) 円／高大生 600 (400) 円、中学生以下無料

※ () 内は 20 名以上の団体料金

関連行事 ■鑑賞講座

日時 平成 17 年 1 月 15 日(日) 14 時～15 時 30 分

講師 菅章 (大分市美術館学芸課長)

演題 クールベ絵画の今日的意義 参加者 107 人

■展示解説

日時 1 月 22 日(日)、2 月 26 日(日)、3 月 3 日(金) 14 時～

担当 岩尾徳信 参加者 169 人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版

関連記事 「風景画を中心に 80 点」『大分合同新聞』夕刊 1 月 13 日、
菅章 談「開かれた美術館モットーに」『大分合同新聞』1 月 13 日、
「魅惑のフランス絵画満開」『日本経済新聞』1 月 19 日、
「東西南北」『大分合同新聞』1 月 20 日、
小川善規「印象派に道を開く」『大分合同新聞』夕刊 1 月 20 日、
岩尾徳信「一写実主義の巨匠ークールベ美術館展 1～5」『大分合同新聞』夕刊 2 月 6～10 日、
「絵画の常識打ち破る」『大分合同新聞』夕刊 2 月 26 日、
「20 日は特別開館」『大分合同新聞』夕刊 3 月 17 日

(担当 岩尾)

	作者名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	ギュスターヴ・クールベ	岩に囲まれた画家とモデル	1838	38×46	油彩／キャンヴァス
2	〃	オルナンに向かって流れるルー川	1838	19×26	〃
3	〃	浅瀬を渡る	1841	26×22	〃
4	〃	オルナンの若い女性の肖像	1842	71×57	〃
5	〃	錫メッキ屋	1842	50×61	〃
6	〃	アルジェ太守の囚われ人	1944	81×65	〃
7	〃	フォンテーヌブローの風景の習作	1850	32×45	〃
8	〃	田舎の猟師たち	1857	71×89	〃
9	〃	サランの若い娘	1859	48×37	〃
10	〃	仔山羊を抱く村の娘	1860	81×65	〃
11	〃	セー・アン・ヴァレのルー川	1860	67×80	〃
12	〃	ルイ=オーギュスタン・オーガンの肖像	1862-63	72×54	〃
13	〃	サントーンジュの風景	1862-63頃	56×47	〃
14	〃	オルナンの釣り人	1863	46×54	〃
15	〃	オルナンの城	1864	65×81	〃
16	〃	ブレーム川の滝	1864	75×94	〃
17	〃	舟遊び	1864	47×57	〃
18	〃	オルナンの製紙場	1865頃	60×73	〃
19	〃	オルナン近くの断崖	1865頃	55×85	〃
20	〃	雪に覆われた水源の洞窟	1866	74×97	〃
21	〃	トゥルーヴィルの黒い岩	1866	32×55	〃
22	〃	聖職者会議物語（会議の始まり）	1868	60×77	油彩／板
23	〃	聖職者会議物語（争い、または窓外放出）	1868	60×77	〃
24	〃	聖職者会議物語（就寝、または司祭館への帰還）	1868	60×77	〃
25	〃	ペラスケス風の男の肖像	1869	58×43	油彩／キャンヴァス
26	〃	ジュラの風景	1872	46×56	〃
27	〃	岩場の滝	1872	48×40	〃
28	〃	岩場の風景	1872	27×32	〃
29	〃	サン=トーヴァンの浜辺	1872	33×41	〃
30	〃	シヨン城	1874	86×100	〃
31	〃	ノルマンディの海景	1873	33×41	〃
32	〃	滝	1873	65×55	〃
33	〃	オルナン近郊の風景	1873	50×61	〃
34	〃	日没	1875	38×55	〃
35	〃	岩場の風景	1875	51×66	〃
36	〃	木のある風景	1860頃	37×30	素描／紙
37	〃	川の辺り	1863頃	42×53	〃
38	〃	石割人夫	1865	29×22	リトグラフ
39	〃	田園の恋人たち	1867	27×23	ペン画掲載新聞
40	〃	牝牛の番をする娘に施しをする オルナンのお嬢さんたち	1867	22×31	エッチング
41	〃	傷ついた男	1867	20×23	ペン画の複本

	作者名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
42	ギュスターヴ・クールベ	追いつめられた鹿	1869	15×22	リトグラフ
43	〃	聖職者会議からの帰り道	1868	18×26	エッチング
44	〃	同僚の家での食事	1869	18×28	〃
45	〃	エルヴェティア	1875	60×44	リトグラフ
46	〃	釣り人のいる風景	1870	60×73	油彩／キャンヴァス
47		風景の中の牡鹿と猟師たち	1872-73頃	40×48	〃
48		黒の岩場にかかる夕日	1870-75頃	53×102	〃
49		シヨン城	1875	74×92	〃
50		ジュラの風景	1876頃	59×73	〃
51		川の堰きとめ所	1875-80頃	46×55	〃
52	ケルピノ・パタ	森の中の溪流	1872頃	46×60	〃
53	〃	ピュイ・ノワール川	1872-73頃	19×24	〃
54	〃	オルナンの近くの平原風景	1877-80頃	50×61	〃
55	〃	ボン・ポールのテラス	1877	26×34	〃
56	〃	クールベの寓話的な肖像	1878	22×16	〃
57	〃	古い水車	1878	33×42	〃
58	〃	アルプスの森の風景	1882	81×65	〃
59	〃	薪を集める女	1883	46×56	〃
60	ジャン＝ジャン・コルニユ	田舎の猟師の休憩所	1860	89×116.5	〃
61	アレクサンドル・ラパン	ピュイ・ノワール付近のブレーム川の溪流	1873	54×65.5	〃
62	テオフィル・モレル	雪の風景	1877	45.5×55.5	〃
63	〃	山の頂上付近の水源	1877-80頃	48×37	〃
64	ニコラ・フランソワ・シフラー	ギュスターヴ・クールベの肖像	1850頃	55×46	〃
65	〃	オルナン近郊の風景	1860頃	40×67	〃
66	エルネスト・ブリゴ	雪景色の中の滝	1872	97.5×130.5	〃
67	〃	鹿のいる風景	1870-75	51×80	〃
68	フランソワ＝ルイ・フランセ	釣りをするクールベ	1865	100×80	〃
69	ナルシス・ディアス・ド・ペナ	森の辺り	1865-68	27×20.5	〃
70	ロベール・フェルニエ	クールベへのオマージュ	1952-55	100×156	〃
71	ベルナール・ビュッフェ	クールベのために、ヴェルドン川の峡谷	1993	98×147	〃
72		クールベ愛用のパイプ3本			
73		クールベのデス・マスク		29 x 16 x 18	ブロンズ
74		クールベの手		23 x 12 x 7	石膏
75		パリ・コミュニケーション紙 No. 3		25×16.5	
76		ル・フィス・デュ・ペール・デュシエール紙 No. 7		13×14	
77		「オルナンの埋葬」を描いたアトリエの壁		12×12	
78		エティエンヌ・カルジャによるクールベの肖像写真	1865頃	28.5×23	

※No. 32「シオン城」は2月12日までの展示。No. 46「釣り人のいる風景」は北海道立帯広美術館蔵。

3.2. 常設展

3.2.1. 第1期常設展

平成17年4月19日（火）～6月26日（日）

（常設展示室2 前期：5月22日（日）まで、後期：5月24日（火）より）

■常設展示室1 近代・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ 高山辰雄－移ろいゆく時の中で－

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	高山 辰雄	立春	1937(昭和12)	42.8×56.8	絹本着色	
2	高山 辰雄	沼にうつる	1955(昭和30)	48.5×72.6	紙本着色	
3	高山 辰雄	風景	1950(昭和25)頃	38.4×61.0	紙本着色	
4	高山 辰雄	夕	1951(昭和26)	69.5×87.8	絹本着色	
5	高山 辰雄	雪	1954(昭和29)	66.0×87.5	絹本着色	
6	高山 辰雄	夕	1955(昭和30)	64.5×93.7	紙本着色	
7	高山 辰雄	山の音	1958(昭和33)	60.5×92.4	紙本着色	
8	高山 辰雄	青い空	1957(昭和32)	41.2×57.9	紙本着色	
9	高山 辰雄	山	1959(昭和34)	43.4×57.0	紙本着色	
10	高山 辰雄	道	1961(昭和36)	45.5×60.6	紙本着色	
11	高山 辰雄	青の夜	1961(昭和36)	38.0×55.0	紙本着色	
12	高山 辰雄	明けゆく	1962(昭和37)	55.5×76.5	紙本着色	
13	高山 辰雄	夜明け	1965(昭和40)	41.0×53.0	紙本着色	
14	高山 辰雄	椅子に	1990(平成2)	116.0×87.5	絹本着色	
15	高山 辰雄	燈	1985(昭和60)	211.5×139.5	紙本着色	
16	高山 辰雄	新雪	1992(平成4)	224.0×160.0	紙本着色	
17	高山 辰雄	少女	1992(平成4)	100.0×75.5	紙本着色	
18	高山 辰雄	赤い服の女	1950(昭和25)	122.2×75.0	絹本着色	
19	高山 辰雄	襟巻	1949(昭和24)	51.2×59.0	絹本着色	
20	高山 辰雄	赤いセーター	1952(昭和27)	70.5×57.1	絹本着色	
21	高山 辰雄	黒いもんぺ	1944(昭和19)	174.2×70.6	紙本着色	
22	高山 辰雄	由紀子立像	1945(昭和20)	79.4×52.0	紙本着色	
23	高山 辰雄	壺	1943(昭和18)	129.9×75.9	紙本着色	
24	高山 辰雄	黒い服の少女	1948(昭和23)	57.5×53.5	絹本着色	
25	高山 辰雄	子	1950(昭和25)	103.1×75.4	絹本着色	
26	高山 辰雄	赤い服の女	1950(昭和25)	49.4×57.6	絹本着色	
27	高山 辰雄	紫陽花の頃	1941(昭和16)	125.0×41.0	絹本着色	
28	高山 辰雄	朱樂	1952(昭和27)	70.5×57.1	絹本着色	
29	高山 辰雄	白鷺	1939(昭和14)頃	各167.7×371.4	紙本着色	
30	高山 辰雄	雲煙に飛翔	2001(平成13)	174.2×727.2	紙本金砂子墨画	
31	高山 辰雄	猫と玉葱	1957(昭和32)	55.6×77.1	紙本着色	
32	高山 辰雄	緑の野に	1952(昭和27)	59.5×71.3	絹本着色	
33	高山 辰雄	瓜図	1952(昭和27)	51.5×70.0	絹本着色	
34	高山 辰雄	鶉	1955(昭和30)	67.0×92.5	紙本着色	
35	高山 辰雄	日月星辰2001 I	2001(平成13)	26.1×32.1	エッチング	
36	高山 辰雄	日月星辰2001 II	2001(平成13)	26.1×32.6	エッチング	

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
37	高山 辰雄	日月星辰2001 III	2001(平成13)	26.1×32.1	エッチング	
38	高山 辰雄	日月星辰2001 IV	2001(平成13)	26.1×32.0	エッチング	
39	高山 辰雄	日月星辰2001 V	2001(平成13)	25.4×32.3	エッチング	
40	高山 辰雄	日月星辰2001 VI	2001(平成13)	26.1×32.0	エッチング	
41	高山 辰雄	日月星辰2001 VII	2001(平成13)	32.2×26.2	エッチング	
42	高山 辰雄	日月星辰2001 VIII	2001(平成13)	32.0×26.0	エッチング	
43	高山 辰雄	日月星辰2001 IX	2001(平成13)	29.7×22.8	エッチング	
44	高山 辰雄	日月星辰2001 X	2001(平成13)	31.9×25.9	エッチング	
45	高山 辰雄	雨	2003(平成15)	200.0×140.0	紙本着色	

【高山辰雄記念室】

1	高山 辰雄	源氏物語 序	1982(昭和57)	53.5×37.2	リトグラフ	
2	高山 辰雄	源氏物語 空蝉	1982(昭和57)	55.5×38.5	リトグラフ	
3	高山 辰雄	源氏物語 夕顔	1982(昭和57)	56.0×38.5	リトグラフ	
4	高山 辰雄	源氏物語 紅葉賀	1982(昭和57)	58.5×38.5	リトグラフ	
5	高山 辰雄	源氏物語 篝火	1982(昭和57)	55.3×38.3	リトグラフ	
6	高山 辰雄	源氏物語 若菜	1982(昭和57)	55.3×38.0	リトグラフ	
7	高山 辰雄	源氏物語 橋姫	1982(昭和57)	55.0×37.5	リトグラフ	
8	高山 辰雄	源氏物語 宿木	1982(昭和57)	54.5×37.2	リトグラフ	
9	高山 辰雄	源氏物語 浮舟	1982(昭和57)	54.5×37.8	リトグラフ	
10	高山 辰雄	丘の上	1973(昭和48)	134.0×215.0	紙本着色	

■常設展示室2 近世の絵画・文人画 富春館記念室

テーマ 帆足杏雨とその周辺 (前期)

1	帆足杏雨	四時花鳥図巻	1830(天保元)	18.3×148.0	紙本墨画淡彩	
2	帆足杏雨	風雨赴約図	1837(天保8)頃	143.1×51.7	紙本墨画淡彩	
3	帆足杏雨	松陰自適図	1837(天保8)頃	143.3×52.0	紙本墨画淡彩	
4	帆足杏雨	淡彩山水図	1837(天保8)頃	139.8×37.4	紙本墨画淡彩	
5	帆足杏雨	秋景山水図	天保年間	128.0×59.2	紙本淡彩	
6	帆足杏雨	松下納涼図	1840(天保11)	142.0×56.4	絹本墨画淡彩	
7	帆足杏雨	老圃秋容図	1848(嘉永元)	154.8×57.2	絹本墨画着色	
8	帆足杏雨	李青蓮詩意山水図	1854(嘉永7)	154.9×57.2	絹本墨画淡彩	
9	帆足杏雨	風雨渡江図	1852(嘉永5)	122.6×57.1	絹本墨画淡彩	
10	帆足杏雨	松梅菊書画貼交屏風	1864(元治元)	各隻141.6×326.6	紙本墨画・紙本墨書	
11	高橋草坪	山水妙清図	文政後期	110.0×26.8	紙本墨画	寄託品
12	田能村竹田	伏水望京図	1823(文政6)	107.2×26.4	紙本墨画淡彩	
13	田能村竹田	溪荘趁約図	1828(文政11)	118.5×42.5	絹本墨画	重文
14	田能村如仙	無腸公子図	不詳	127.0×30.5	紙本墨画	
15	平野五岳	松林山水図	1861(文久元)	127.7×41.9	絹本墨画淡彩	

テーマ 田能村直入を中心に (後期)

1	田能村直入	花卉図(六幅対)	1833(天保4)	各107.5×31.0	紙本着色	
2	田能村直入	柳崖瀛洲図	1838(天保9)	35.6×100.9	紙本墨画・紙本墨書	寄託品

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
3	田能村直入	四季山水図(四幅対)	1884(明治17)	各196.5×84.8	絹本着色	
4	田能村直入	羅浮仙女図	明治時代	114.5×36.8	絹本着色	
5	田近竹邨	桐陰遺興図	1917(大正6)	170.5×52.0	絹本着色	
6	田近竹邨	松林飛鶴図	1896(明治29)	128.0×42.5	絹本淡彩	
7	田能村竹田	漁樵問答図	1834(天保5)	128.5×50.3	絹本淡彩	重文
8	帆足杏雨他	山水図(対幅)	1875(明治8)	18.1×12.5他	紙本箔押墨画	
9	後藤碩田	晚江帰棹図	不詳	130.0×30.0	紙本墨画	

■常設展示室3 近代・現代の洋画・版画

テーマ 現代美術の表現ー反復するかたちー

1	神田千里	連鎖する形	1982(昭和57)	112.1 × 145.5	油彩、キャンバス	
2	油野誠一	デソリヤの街	1953(昭和28)	181.8 × 259.1	油彩、キャンバス	
3	廣瀬通秀	モニュメント	1980(昭和55)	181.8 × 227.3	油彩、キャンバス	
4	白根光夫	繚乱吉野山図	1990(平成2)	各隻175.0×380.0	油彩、板	
5	草間彌生	生命への畏敬	1989(平成元)	194.0×390.0	アクリル、キャンバス	
6	草間彌生	ACCRETION (No.3)	1964(昭和39)	110.0×70.0	コラージュ	
7	糸園和三郎	鳥の壁	1963(昭和38)	72.7×60.6	油彩、キャンバス	
8	岸本清子	夜(日本の花シリーズ・山桜)	1984(昭和59)	183.0×183.0	アクリル、板	
9	宮脇愛子	作品	1962(昭和37)	163.0×121.0	油彩、キャンバス	
10	宮脇愛子	作品	1963(昭和38)	181.0×120.5	油彩、キャンバス	
11	大塚雄造	波 J-77	1991(平成3)	165.0×300.0	アクリル、キャンバス	
12	江藤 明	MY SPACE	1981(昭和56)	194.0 × 194.0	油彩、キャンバス	
13	佐藤 敬	凝結波	1966(昭和41)	195.0×130.0	油彩、キャンバス	

■常設展示室4 竹工芸

テーマ 祥雲齋・真竹と黒竹

1	生野祥雲齋	無双編盛籃	1963(昭和38)頃	高 9 径30	竹	
2	生野祥雲齋	乱菊	1964(昭和39)	133.5×285×50	竹・籐	
3	生野祥雲齋	久寿玉	1964(昭和39)	高43 径63	竹	
4	生野祥雲齋	竹筥	1964(昭和39)	高15 32×32	竹・籐	
5	生野祥雲齋	紫竹盛籃 此君	1965(昭和40)代	高16 40×26.4	竹・籐	
6	生野祥雲齋	はなころも	1965(昭和40)頃	高28.3径 9	竹	
7	生野祥雲齋	花衣	1965(昭和40)頃	高28.8径 8.6	竹	
8	生野祥雲齋	紫竹盛華籃	1965(昭和40)頃	高27.2 30×62	竹	
9	生野祥雲齋	白竹投入華籃	1965(昭和40)頃	高41 径16.5	竹・籐	

3.2.2. 第2期常設展

平成17年9月27日（火）～12月27日（火）

（常設展示室2のみ 前期：11月13日（日）まで 。後期：11月15日（火）から）

■常設展示室1 近代・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ 戦後の日本画 正井和行・岩澤重夫・箱崎睦昌

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	正井 和行	魼	1971(昭和46)	161.0×220.0	紙本着色	
2	正井 和行	発掘	1992(平成4)	190.0×160.0	紙本着色	
3	正井 和行	憶昔	1992(平成4)	65.2×90.9	紙本着色	
4	岩澤 重夫	輝やく峰	1998(平成10)	218.0×144.0	紙本着色	
5	岩澤 重夫	郷	1987(昭和62)	191.0×180.0	紙本着色	
6	岩澤 重夫	響	1988(昭和63)	191.0×168.0	紙本着色	
7	岩澤 重夫	由布岳	制作年不詳	65.0×91.0	紙本着色	
8	後藤 純男	北国山頂	1963(昭和38)頃	72.8×91.0	紙本着色	
9	箱崎 睦昌	潮声	1991(平成3)	180.0×540.0	紙本着色	
10	白井 進	山への道	1990(平成2)	65.2×90.9	紙本着色	
11	八田 哲	平戸城暮色	1990(平成2)	53.0×72.8	紙本着色	
12	箱崎 睦昌	桜島	1988(昭和63)	210.0×560.0	紙本着色	
13	箱崎 睦昌	蔓	1985(昭和60)	145.5×224.5	紙本着色	
14	箱崎 睦昌	冬山	1984(昭和59)	182.0×195.0	紙本着色	
15~22	畠中 光享	釈尊十大弟子	1984(昭和59)	各190.0×95.0	紙本着色	10面の内、8面
23	畠中 光享	林住禅定	2003(平成15)	171.5×464.0	絹本墨画／裏箔	
24	藁谷 実	赤褐色の廃屋	1992(平成4)	182.0×227.0	紙本着色	
25	高山 辰雄	春の浅い日（紹興）	1992(平成4)	36.5×55.0	リトグラフ	
26	高山 辰雄	おひるどき	1994(平成6)	51.0×67.0	リトグラフ	
27	高山 辰雄	聖家族 X	1976(昭和51)	25.8×34.2	エッチング	
28	高山 辰雄	聖家族 XI	1976(昭和51)	28.8×35.8	エッチング	
29	高山 辰雄	聖家族 XII	1976(昭和51)	23.8×32.8	エッチング	
30	高山 辰雄	聖家族 XIII	1976(昭和51)	29.7×36.4	エッチング	
31	高山 辰雄	聖家族 XIV	1976(昭和51)	23.3×32.3	エッチング	
32	高山 辰雄	聖家族 XV	1976(昭和51)	23.8×32.5	エッチング	
33	高山 辰雄	聖家族 XVI	1976(昭和51)	26.3×34.5	エッチング	
34	福田平八郎	紅鳶	制作年不詳	106.0×27.0	紙本着色	
35	福田平八郎	白梅鶯	制作年不詳	130.7×30.8	紙本着色	
36	福田平八郎	鮎	制作年不詳	26.2×23.6	紙本着色	

【高山辰雄記念室】

1	高山 辰雄	聖家族 I	1976(昭和51)	14.7×18.0	エッチング	
2	高山 辰雄	聖家族 II	1976(昭和51)	32.6×23.5	エッチング	
3	高山 辰雄	聖家族 III	1976(昭和51)	36.0×29.0	エッチング	
4	高山 辰雄	聖家族 IV	1976(昭和51)	36.0×29.5	エッチング	
5	高山 辰雄	聖家族 V	1976(昭和51)	36.3×29.3	エッチング	
6	高山 辰雄	聖家族 VI	1976(昭和51)	35.3×28.8	エッチング	
7	高山 辰雄	聖家族 VII	1976(昭和51)	32.1×23.3	エッチング	

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
8	高山 辰雄	聖家族 VIII	1976 (昭和51)	36.3×29.8	エッチング	
9	高山 辰雄	聖家族 IX	1976 (昭和51)	32.7×23.8	エッチング	
10	高山 辰雄	堇とコップ	1956 (昭和31)	42.0×59.5	紙本着色	
11	高山 辰雄	静物	1950 (昭和25) 頃	48.5×56.5	紙本着色	
12	高山 辰雄	静物	1955 (昭和30)	54.2×72.6	紙本着色	

■常設展示室2 近世の絵画・文人画 富春館記念室

テーマ 平野五岳を中心に (前期)

1	田能村竹田	盆卉図	1833 (天保4)	29.3×30.8	紙本淡彩	重文
2	田能村竹田	君子延年図	1830~35	26.4×18.3	紙本淡彩	〃
3	平野五岳	静湖柳村図	1843 (天保14)	131.4×36.4	絹本墨画淡彩	
4	平野五岳	青山緑樹図	1850 (嘉永3)	144.7×49.4	絹本墨画淡彩	
5	平野五岳	浅絳山水図	1861 (文久1)	157.5×57.3	絹本墨画淡彩	
6	平野五岳	群鶴群亀図	1862 (文久2)	131.9×33.9	絹本墨画着色	
7	平野五岳	秋景山水図	1863 (文久3)	109.0×38.0	紙本墨画淡彩	
8	平野五岳	松林山水図	1868 (明治元)	149.0×66.0	絹本墨画	
9	平野五岳	松蔭吟艇図	1870 (明治3)	150.0×50.7	絹本墨画	
10	平野五岳	柳陰帰漁図	1871 (明治4) 頃	147.0×51.5	絹本墨画淡彩	
11	平野五岳	松林山水図	1874 (明治7)	157.0×51.5	絹本墨画淡彩	
12	平野五岳	月下孤蓬図	1876 (明治9)	142.8×41.9	絹本墨画淡彩	
13	平野五岳	書画冊	1876 (明治9)	各22.6×22.8	絹本墨画、墨書	
14	平野五岳	花卉図貼交屏風	1879 (明治12) 他	各147.5×52.0	絹本墨画淡彩	
15	平野五岳	前赤壁書画 (対幅)	1885 (明治18)	各217.5×48.0	絹本墨画淡彩	
16	平野五岳	雪中山水図	1888 (明治21)	174.5×67.0	紙本墨画	
17	平野五岳	老松図	1892 (明治25)	151.8×52.7	絹本墨画	

テーマ 田近竹邨を中心に (後期)

1	田近竹邨	観艦式	1895 (明治28)	141.5×53.4	紙本墨画淡彩	
2	田近竹邨	松林飛鶴図	1896 (明治29)	128.0×42.5	絹本淡彩	
3	田近竹邨	題石図・樹下一夢図屏風 (一双)	1897 (明治30)	各173.5×185.6	紙本墨画淡彩	
4	田近竹邨	春秋山水図屏風 (一双)	1912 (大正元)	各179.2×364.8	紙本墨画淡彩	
5	田近竹邨	桐陰遺興図	1917 (大正6)	170.0×52.0	絹本着色	
6	田能村竹田	秋溪趁約図	1834 (天保5)	136.0×60.0	紙本淡彩	重文
7	淵野桂仙	蝦蟇仙人図	1858 (安政5)	136.3×135.9	紙本墨画着色	
8	帆足杏雨	雪溪吟鞭図	1837 (天保8) 頃	143.0×51.7	紙本墨画淡彩	
9	田能村直入	四季山水図	1884 (明治17)	196.5×84.8	絹本着色	
10	平野古桑	雨後観瀑図	制作不詳	173.3×52.2	絹本着色	
11	平野古桑	青山紅樹図	制作不詳	173.0×52.3	絹本着色	

■常設展示室3 近代・現代の洋画・版画

テーマ 戦後美術の断面－様々な素材－

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	吉原治良	作品 B	1957(昭和32)	160×130	油彩、キャンバス	
2	白髪一雄	地勇星病尉遅	1961(昭和36)	130×195	油彩、キャンバス	
3	岡崎乾二郎	食べものに関することとなると、目の前にないかぎり「あれ」やら「これ」やら、口に出すこともできません。手で掴めるものだったらやり直しも利くでしょう。まして自分の歯で噛むことができたなら差し挟める言葉のひとつも出るはずがありません。「ほんまかいな。俺はあやしいと思うな」。いや迷信を捨てるためにも直に口で触れ歯で信じてみたいのです。風が吹いて葉が揺れるように顔の筋肉がたしかに動くんだからね。	2002(平成14)	180×130×5	油彩、キャンバス	
4	岡崎乾二郎	食べものに注文つけるように、見えるものには文句を言わせてもらってます。まだ泳いでいる魚にだって「これは新しすぎ、しまりすぎている。」と注文しています。「あんたの眼に水かけて、洗うたら良くなるのちやう？」いやいや生ものであっても、眼には柔らかすぎるくらいがちょうどいい。決して歯のせいではなく、わたしは自分の眼玉に願をかけている。あんたはそれで良うても、泳いでいる魚はそれで笑われます。	2002(平成14)	180×130×5	油彩、キャンバス	
5	合田習一	WORK´86-10	1986(昭和61)	182×27×24	木、石、銅線	
6	合田習一	WORK´88-9(木偶10)	1988(昭和63)	43×43×48	木	
7	趙 徳浩	Reality - 9402A	1994(平成6)	60×90×10	手漉き紙、竹	
8	趙 徳浩	Reality - 9402B	1994(平成6)	60×90×10	手漉き紙、竹	
9	趙 徳浩	Reality - 9403A	1994(平成6)	90×180	手漉き紙、竹	
10	趙 徳浩	Reality - 9403B	1994(平成6)	90×180	手漉き紙、竹	
11	趙 徳浩	Reality - 9403C	1994(平成6)	90×180	手漉き紙、竹	
12	石橋 泰幸	浸透・物性	1979(昭和54)	76×56	アクリル・布	
13	大久保英治	△(Forest)	1989(平成元)	106×70	流木、和紙	
14	大久保英治	□(Forest)	1989(平成元)	98×46	流木、和紙	
15	升沢金平	ニューヨークにて	1963(昭和38)	95×122	コラージュ、板	
16	田中信太郎	ピアノシモ	1979(昭和54)	33.4×33.4	油彩、キャンバス	
17	原口典之	UNTITLED AA-04	1981(昭和56)	122.5×122.5×11	ポリウレタン他	
18	山本富章	“円筒状に－12の月”	2003(平成15)	φ51×H61cm他	木・アクリル	

■常設展示室4 竹工芸

テーマ 祥雲齋・束ね編みの技法

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	飯塚琅玕齋	花籃 壽	1931(昭和06)	高21 径34	竹	大分県立芸術会館蔵
2	生野祥雲齋	木瓜形菱花紋透盛籃	1942(昭和17)	高17 50×46	竹・籐	〃
3	生野祥雲齋	時代竹編盛籃 心華賦	1943(昭和18)	高17 径47	竹・籐	〃
4	生野祥雲齋	輪花永芳盛籃	1944(昭和19)	高14 径39	竹・籐	
5	生野祥雲齋	秋苑	1946(昭和21)	高31 径34	竹・籐	
6	生野祥雲齋	櫛目編華籃 悠然	1946(昭和21)	高41 径20	竹・籐	大分県立芸術会館蔵
7	生野祥雲齋	華籃	制作年不詳	高26.6 径30	竹・籐	個人蔵
8	木村 新	盛籃 巨鉢	1953(昭和28)	高23 径40.8	竹・籐	
9	山口 明	花車	2002(平成14)	高32 径53	竹・籐	

※展示替(No.2、3は前期：9月27日～11月13日、No.1、6は後期：11月15日～12月28日)

3.2.3. 第3期常設展

平成18年1月5日(木)～4月23日(日)

(常設展示室2のみ 前期：2月19日(日)まで。後期：2月21日(火)から)

■常設展示室1 近代・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ 福田平八郎を中心に

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	福田平八郎	冬日	1945(昭和20)頃	53.5×39.5	紙本着色	
2	福田平八郎	紅葉と虹	1947(昭和22)	88.0×61.0	絹本着色	
3	福田平八郎 金島桂華	無花果と紅葉	不詳	34.0×57.5	紙本着色	個人蔵
4	福田平八郎	桃	不詳	29.6×37.5	パステル	〃
5	福田平八郎	猫柳	不詳	18.5×14.0	紙本墨画	〃
6	福田平八郎	桔梗	不詳	26.0×23.5	紙本着色	〃
7	福田平八郎	双鶴	不詳	26.0×23.0	紙本着色	〃
8	福田平八郎	曙の富士	不詳	26.5×23.8	紙本着色	〃
9	福田平八郎	水仙	不詳	31.0×24.5	紙本着色	〃
10	福田平八郎	紋鷄	不詳	30.0×23.0	紙本着色	〃
11	福田平八郎	蜜柑	不詳	26.5×23.5	紙本着色	〃
12	福田平八郎	久住高原	不詳	11.0×20.0	紙本墨画	〃
13	福田平八郎	羊	不詳	25.0×22.0	紙本墨画	〃
14	福田平八郎	風船	不詳	25.5×21.0	紙本墨画	〃
15	福田平八郎	黄鵠鴿	不詳	29.5×42.3	紙本着色	〃
16	福田平八郎	羅漢寺	不詳	134.0×54.0	紙本着色	
17	福田平八郎	蜜柑	1956(昭和31)頃	60.6×45.5	紙本着色	
18	福田平八郎	かぶら	不詳	38.5×19.5	紙本着色	個人蔵
19	福田平八郎	椿と鳥	1936(昭和9)	27.0×69.0	紙本着色	〃
20	福田平八郎	暖冬	不詳	45.5×66.5	絹本着色	〃
21	福田平八郎	白梅眼白	1940(昭和15)頃	45.0×65.0	紙本着色	
22	福田平八郎	松茸	不詳	20.5×31.0	紙本着色	個人蔵
23	福田平八郎	白梅	不詳	26.3×23.4	紙本着色	
24	福田平八郎	竹	不詳	22.0×51.5	紙本着色	個人蔵
25	福田平八郎	ビール瓶とコップ	1920(大正9)頃	39.0×29.5	紙本淡彩	
26	福田平八郎	鯉(下絵)	不詳	52.5×76.5	紙、鉛筆	個人蔵
27	八田 哲	早春(大野城)	1990(平成2)	53.0×72.8	紙本着色	
28	上村 淳之	月の水辺	1990(平成2)	146.0×227.0	紙本着色	
29	上村 淳之	風渡る	1992(平成4)	160.0×228.0	紙本着色	
30	正井 和行	雨後	1997(平成9)	210.0×140.0	紙本着色	
31	福田平八郎	池辺の家鴨	1916(大正5)	168.0×78.0	紙本着色	
32	福田平八郎	池辺游魚	1923(大正12)頃	140.5×41.5	絹本着色	
33	福田平八郎	光雪	1933(昭和8)頃	134.5×42.0	紙本着色	
34	福田平八郎	雉子	1938(昭和13)	185.0×42.5	絹本着色	
35	福田平八郎	鯉	1939(昭和14)	43.2×87.2	絹本着色	
36	福田平八郎	鮎	1940(昭和15)	140.5×36.0	紙本着色	
37	福田平八郎	鳳仙花	1947(昭和22)	30.5×43.0	紙本着色	

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
38	福田平八郎	飛魚	1926 (昭和元) 頃	44.5×57.7	絹本着色金砂子	
39	福田平八郎	水蜜桃	1950 (昭和25)	30.7×42.0	紙本着色	
40	福田平八郎	菓子	1948 (昭和23) 頃	27.0×24.0	紙本着色	
41	首藤 雨郊	山水図 (三幅対)	1933 (昭和8)	画120.0×25.3 書120.0×21.5	紙本墨画	
42	高倉 観崖	遠山秋雨	1927 (昭和2)	145.0×51.0	絹本着色	
43	鈴木 忠実	霧を行く	2002 (平成14)	131.0×324.0	紙本着色	
44	宮崎 喜恵	あだし野	1990 (平成2)	162.1×130.3	紙本着色	
45	釘宮 對岩	法隆寺	1984 (昭和59)	83.0×62.0	紙本墨画	
46	釘宮 對岩	杉林と塔	1983 (昭和58)	45.0×53.0	紙本墨画	
47	首藤 雨郊	薩摩街道の冬	1921 (大正10)	167.8×376.0	紙本着色	
48	南 聡	大潮	1996 (平成8)	180.0×360.0	紙本着色	
49	首藤 詔子	絵巻に偲ぶ	1985 (昭和60)	162.1×130.3	紙本着色	

【高山辰雄記念室】

1	高山 辰雄	立春	1937 (昭和12)	42.8×56.8	絹本着色	
2	高山 辰雄	筍	1947 (昭和22)	44.1×51.5	紙本着色	
3	高山 辰雄	由紀子立像	1945 (昭和20)	79.4×52.0	紙本着色	
4	高山 辰雄	壺	1943 (昭和18)	129.9×75.9	紙本着色	
5	高山 辰雄	赤い服の女	1950 (昭和25)	122.2×75.0	絹本着色	
6	高山 辰雄	湯泉	1934 (昭和9)	244.0×187.0	絹本着色	
7	高山 辰雄	黒い服の少女	1948 (昭和23) 頃	57.5×53.5	絹本着色	

■常設展示室2 近世の絵画・南画 (文人画) 富春館記念室

テーマ 田能村竹田と富春館 (前期)

1	田能村竹田	花卉図 (6幅対の内白梅図)	1808 (文化5)	115.7×38.8	紙本墨画淡彩	重文
2	田能村竹田	梅花書屋図及題詩	1824 (文政7)	各112.5×30.5	紙本墨画	〃
3	田能村竹田	暗香疎影図	1831 (天保2)	136.0×57.0	紙本淡彩	〃
4	田能村竹田	五言古詩	1831 (天保2)	98.7×51.3	紙本墨書	〃
5	狩野常信	高士囲碁喫茶図屏風	江戸時代前期	各隻171.5×379.4	紙本墨画淡彩	
6	帆足杏雨	月下竹梅図襖	江戸時代後期~明治時代初期	各図173.5×72.3	紙本墨画金砂子	
7	帆足杏雨	巴峽蜀舩図	1837 (天保8) 頃	143.1×51.7	紙本墨画淡彩	
8	帆足杏雨	秋水野航図	1837 (天保8) 頃	152.2×52.0	紙本墨画淡彩	
9	帆足杏雨	梅花山茶花群雀図	江戸時代後期	147.2×57.1	紙本墨画淡彩	
10	帆足杏雨	粉團鳳仙戯鳥図	江戸時代後期	147.2×57.1	紙本墨画淡彩	
11	浦上春琴	花鳥図	1829 (文政12)	130.9×37.2	絹本着色	
12	中林竹洞	烟江疊嶂図	1829 (文政12)	109.0×38.0	絹本墨画淡彩	

テーマ 文人の書 (後期)

1	田能村竹田	四季花鳥図 (4幅の内冬図)	1809 (文化6)	130.2×60.7	絹本着色	重文
2	田能村竹田	填詞	文政年間頃	129.0×52.5	紙本墨書	〃
3	田能村竹田	書簡 (享和元年7月付伊藤鏡河宛)	1801 (享和元)	15.4×28.0cm	紙本墨書	
4	田能村竹田他	対聯 {自筆及雲華筆}	1832 (天保3)	各111.7×13.0	紙本墨書	重文

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
5	田能村竹田	書簡 (文政12年6月1日付 田能村太一宛)	1829 (文政12)	18.0×7.8他	紙本墨書	
6	田能村竹田	書簡 (天保6年8月12日付 田能村如仙宛)	1835 (天保6)	22.0×22.3	紙本墨書	
7	平野五岳	花卉図貼交屏風	1879 (明治12) 他	各147.5×52.0	紙本墨画淡彩	
8	平野五岳	田原坂詠詩	1877 (明治10)	168.7×44.7	紙本墨書	
9	平野五岳	贈某先生詠詩	1877 (明治10) 頃	146.8×87.9	紙本墨書	
10	平野五岳	楠公廟下作詩	1878 (明治11) 頃	135.0×62.0	紙本墨書	
11	平野五岳	熊本城下作詩	1888 (明治21) 頃	167.9×64.1	紙本墨書	
12	平野五岳	明智左馬介湖水渡詩書	1888 (明治21) 頃	152.0×51.5	紙本墨書	
13	頼山陽	頼山陽墨蹟	1829 (文政12)	130.9×37.2	絹本墨書	
14	篠崎小竹	篠崎小竹咏史	江戸時代後期	143.9×57.3	紙本墨書	

■常設展示室3 近・現代の洋画・版画

テーマ 昭和前期の洋画－江藤純平を中心に－

1	江藤純平	花	1929-30 (昭和4-5) 頃	45.0×45.0	油彩、キャンバス	
2	江藤純平	花とレモン	1929-30 (昭和4-5) 頃	45.0×38.0	油彩、キャンバス	
3	江藤純平	雪	1932 (昭和7) 頃	38.0×45.0	油彩、キャンバス	
4	江藤純平	椿	1931 (昭和6)	73.0×91.0	油彩、キャンバス	
5	江藤純平	斜陽	1941 (昭和16)	73.0×91.0	油彩、キャンバス	
6	江藤純平	陰山先生	1959 (昭和34) 頃	116.7×91.0	油彩、キャンバス	
7	江藤純平	風景 (入り江)	1937 (昭和12) 頃	33.0×45.5	油彩、キャンバス	
8	江藤純平	風景 (冬)	1937 (昭和12) 頃	38.0×45.0	油彩、キャンバス	
9	江藤純平	山百合	1940 (昭和15) 頃	53.0×45.5	油彩、キャンバス	
10	江藤純平	秋果図	1949 (昭和24) 頃	36.0×56.0	油彩、キャンバス	
11	江藤純平	飯田高原の秋	1959 (昭和34) 頃	73×92	油彩、キャンバス	寄託品
12	片多徳郎	歌者	1928 (昭和3)	45.0×45.0	油彩、キャンバス	
13	権藤種男	瓦礫の街	1945 (昭和20) 頃	28.5×37.5	油彩、キャンバス	
14	佐藤敬	南京光華門	1941 (昭和16)	61.0×73.0	油彩、キャンバス	
15	宇治山哲平	原生林	1958 (昭和33)	65.3×38.0	油彩、キャンバス	
16	糸園和三郎	作品	1935 (昭和10)	45.5×53.0	油彩、キャンバス	
17	里見勝蔵	観音像	1943 (昭和18)	112.1×162.1	油彩、キャンバス	
18	河原 温	COME ON MY HOUSE	1955 (昭和30)	42.5×64.0	鉛筆、紙	
19	池田龍雄	路地	1954 (昭和29)	24.7×30.8	油彩、紙	
20	池田龍雄	不明	1955 (昭和30)	37.5×26.7	ペン画、紙	
21	野見山暁治	静物	1949 (昭和24)	60.5×80.0	油彩・キャンバス	
22	佐藤溪	パミール高原にて	1952 (昭和27)	44.0×51.7	油彩、板	
23	佐藤溪	茶館にて	1952 (昭和27)	42.3×41.4	油彩、板	
24	佐藤溪	十文字原 (別府)	1952 (昭和27)	18.0×25.0	水彩、紙	
25	佐藤溪	白い裸婦C	1955 (昭和30) 頃	41.5×29.3	油彩、紙	
26	佐藤溪	東京にて	1957 (昭和32) 頃	17.8×25.5	鉛筆、水彩、紙	
27	佐藤溪	街に流れる川	1957 (昭和32) 頃	51.4×71.6	墨、紙	
28	佐藤溪	道の向こうの教会	1954 (昭和29)	22.7×30.9	油彩、紙	

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
29	菅久	作品A (黒い花)	1953 (昭和28)	60.6×45.5	油彩、キャンバス	
30	廣瀬通秀	みのりA	1949 (昭和24)	116.7×90.9	油彩、キャンバス	
31	菅玲子	行水	1955 (昭和30)	80.3×60.6	油彩、キャンバス	
32	神田千里	風吹く日	1954 (昭和29)	90.9×65.2	油彩、キャンバス	
33	江藤明	水門	1954 (昭和29)	91.0×117.0	油彩、キャンバス	

■常設展示室4 竹工芸

テーマ 受け継がれる祥雲斎の心情-田辺信幸-

1	生野祥雲斎	竹干菓子盆	1960 (昭和35) 頃	3.7×15.3×13.2	竹	
2	此君亭工房	四極皿	昭和後期	1.8×13×10.8	竹	
3	生野祥雲斎	くいな笛	1960 (昭和35)	高42.8 径7	竹	
4	生野祥雲斎	重扇吊華籃	1962 (昭和37)	高30.8 32×15	竹・籐	
5	生野祥雲斎	怒涛	1960 (昭和35)	53×53×73.5	竹・籐	
6	田辺信幸	篠竹つぶし花籠「蹲」	2001 (平成13)	高34 径50	竹	
7	田辺信幸	輪弧盛籠「ひまわり」	1965 (昭和40)	高11 径45.6	竹・籐	個人蔵
8	田辺信幸	柱掛け花籠「かたつむり」	2000 (平成12)	高20 24×13	竹・籐	〃
9	田辺信幸	櫛目組竹飾籠「宴」	2003 (平成15)	高43 径36.6	竹・籐	
10	田辺信幸	櫛目花籠「鼓胴」	2001 (平成13)	高23 径30	竹・籐	個人蔵
11	田辺信幸	三ツ組三峰花籠	2005 (平成17)	高25 径42	竹・籐	〃

3.2.4. 常時展示作品

4つの常設展示室のほか、館内・館外の各所に彫刻などの作品を常時展示した。

番号	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	場所
1	熊井恭子	風の道・水の道	2001(平成13)	1200×660×560	ステンレス・スチール線	常設棟1・2F
2	田中信太郎	風の吹く場所	1992-93 (平成4-5)	193×361×16	強化プラスチック ティック	常設棟1F
3	今井俊満	鯉のぼり-大分-	1987(昭和62)	200 × 1000	アクリル・キャンバス	常設展室3
4	朝倉響子	Ashley (アシュリー)	2001(平成13)	H163×70×46	ブロンズ	エントランス ホール
5	村井進吾	FORM-IV	1992(平成4)	153×160×159	黒御影石	1F中庭
6	風倉 匠	陰陽学	2000(平成12)	120×250×120	アルミ合金	企画棟屋上
7	剣持和夫	宇奈月	1993(平成5)	30×30×800	ブロンズ	企画棟屋外
8	井上一朗	L-MOTION	2000(平成12)	303×270×210	アルミニウム	企画棟屋外
9	安藤 泉	遊星散歩	1999(平成11)	660×665×240	純銅板、鍛金	芝生広場
10	原口典之	重力	2003(平成15)	H79×286×800	厚鋼板・コンクリート	芝生広場
11	佐脇健一	BOLT DOG	2000(平成12)	大73×118×20 他	鉄	チャイルドハウス 周辺
12	青木野枝	荒玉	2002(平成14)	430×390×1740	鉄	散策路

3.3. サマー企画

3.3.1. アートワンダーランド 2005<「宝物」を見つけよう>

概要 ‘であった、みつけた、わかったよ、をキャッチフレーズに所蔵品の中から特に子どもたちに見せたい作品を選出し、解説パネル等でわかりやすく紹介した。さらに、自分の好きな作品を見つける「宝物」探しをしながら現代日本画、洋画、豊後南画、現代美術といった様々なジャンルの作品を体験活動（へんしーん、空へはばたこう、つくってみよう、青い小箱等）も取り入れて、鑑賞活動の深化を目指した。

会期 平成 17 年 7 月 6 日(水)～9 月 25 日(日)

後援 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

出品点数 165 点(108 点の組作品を含む)

観覧者数 10,925 人

観覧料 一般 300 (250) 円／高大生 200 (150) 円、中学生以下無料

※ () 内は 20 名以上の団体料金

関連行事 ■講演会

「へんしーん！」サングラスと鏡で、大統領に変身する。

「空へはばたこう」自由に鳥を描く。(会期中会場内空の壁紙に掲示)

参加者 671 人

「ぬりえ」チラシ裏面印刷のぬりえを会場に展示。

参加者 1,060 人

「つくってみよう」宇治山作品を参考にカラーマグネットで作品作成。

「青い小箱」薄闇の中をペンライトで作品を照らしながら自由鑑賞。

「みんなの宝物」鑑賞後、用紙に自分の見つけた宝物を記入する。

(会場内に掲示)

参加者 820 人

■夏休み子ども講座「マトリョーシカ(入れ子人形)をつくろう」

日時 7月28日(木)、29日(金)、8月18日(木)、19日(金)、23日(火)、
24日(水) 10時30分～15時

講師 渡辺恭英氏(画家)、学芸課職員、美術館ボランティアこもれ美

参加者 286 人

■夏休み子ども講座「オリジナル絵本をつくろう」

日時 8月3日(水)～5日(金) 11時～15時30分

講師 大分大学教育福祉科学部 廣瀬剛講師 参加者 102 人

■ハイビジョン紙芝居と親子美術教室

日時 7月9日(土)、23日(土)、8月20日(土)、27日(土)、9月10日(土)
13時15分～15時

講師 学芸課職員、美術館ボランティアこもれ美 参加者252 人

■大分県造形教育研究会 中学部夏季研究会

日 時8月24日(水) 10時～16時

内 容 大分県造形教育研究会中学部の研究発表会。途中で展覧会鑑賞実施
参加者 50人

印刷物 ・チラシ A4版・ワークシート A5版

関連記事 「宝物探しにおいで」『大分合同新聞』7月8日

「子どもたち寄っといで」『大分合同新聞』7月11日

「触れて探してアートな驚き 仕掛け満載の美術館企画」『読売新聞(大分)』7月28日

(担当 大野)

常設展示室 1

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	森田 やすこ	望	1991	125.0×60.0×80.0	ブロンズ
2	滝 純一	風景－漂流	1994	194.0×259.0	油彩、キャンバス
3	郭 徳俊	フォードと郭	1974	150.0×105.0	写真、パネル
4	郭 徳俊	カーターと郭	1977	150.0×105.0	写真、パネル
5	郭 徳俊	レーガンと郭	1981	150.0×105.0	写真、パネル
6	郭 徳俊	レーガンと郭Ⅱ	1985	150.0×105.0	写真、パネル
7	郭 徳俊	ブッシュと郭	1989	150.0×105.0	写真、パネル
8	郭 徳俊	クリントンと郭	1993	150.0×105.0	写真、パネル
9	郭 徳俊	クリントンと郭Ⅱ	1997	150.0×105.0	写真、パネル
10	郭 徳俊	ブッシュ2001と郭	2002	150.0×105.0	写真、パネル
11	郭 徳俊	残骸の光明	1968	162.0×131.0	石膏、胡粉、樹脂他
12	佐藤 敬	三人の家族	1940	145.1×112.1	油彩、キャンバス
13	佐藤 敬	水災に就いて	1939	197.0×268.0	油彩、キャンバス
14	佐藤 敬	暁	1940	130.5×193.6	油彩、キャンバス
15	佐藤 敬	南京光華門	1941	61.0×73.0	油彩、キャンバス
16	佐藤 敬	ピアノと子供	1951	130.0×162.0	油彩、キャンバス
17	佐藤 敬	LE DANS	1950	218.2×290.9	油彩、キャンバス
18	佐藤 敬	凝結波	1966	195.0×130.0	油彩、キャンバス
19	赤木 範陸	ある女の変容	1986	183.1×182.4	ワックステンペラ、板に白亜地
20	赤木 範陸	転生するプーポラのいる風景	1988	156.0×183.5	ワックステンペラ、板、金箔
21	赤木 範陸	蛾のいる風景	1989	157.0×46.0	ワックステンペラ、板、金箔
22	赤木 範陸	崇拜－兆	1989	180.0×34.2	卵黄テンペラ、板、金箔
23	福田 平八郎	池辺遊魚	1923頃	140.5×41.5	絹本着色
24	高山 辰雄	緑の野に	1952	59.1×71.3	絹本着色
25	高山 辰雄	猫と玉葱	1957	55.6×77.1	紙本着色

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
26	林 功	江南光風	1991	各166.8×184.0	絹本着色
27	郷倉 和子	夕焼けとうさぎ	1980	185.0×216.0	紙本着色
28	釘宮 對宕	雪原の王者	1985	247.0×117.0	紙本墨画
29	市野 龍起	翔ぶ日	1995	225.0×160.0	紙本着色
30	石踊 達哉	林檎花	1994	130.3×162.1	紙本着色
31	上村 淳之	風渡る	1992	160.0×228.0	紙本着色
32	倉島 重友	野の調	1987	182.0×227.0	紙本着色

常設展示室 2

33	有元 利夫	遊戯	1977	89.4×145.5	油彩、キャンバス
34	糸園 和三郎	車椅子の老婦	1982	140.0×130.0	油彩、キャンバス
35	赤木 範陸	3つの薔薇のためのコンポジション	1994	140.0×55.0	エンコステック、生キャンバス
36	赤木 範陸	5つの林檎の静物	1994	140.0×70.0	エンコステック、生キャンバス
37	野見山 暁治	容	1970	130.5×194.0	油彩、キャンバス
38	千住 博	ウォーターフォール	1996	194.2×130.4	紙本着色
39	伊藤 深游木	流れる	1991	220.0×161.0	紙本着色
40	土屋 禮一	沼	1991	175.0×220.0	紙本着色
41	香月 泰男	雲	1972	91.0×60.7	油彩、キャンバス
42	釘宮 對宕	日月易流	1983	95.0×33.0	紙本墨画
43	生野 祥雲斎	怒涛	1960	53.0×53.0×73.5	竹、籐
44	松村 公嗣	ほたる	1993	166.0×332.0	紙本着色

常設展示室 3

45	宇治山 哲平	静物 石・茎・ローソク	1954頃	44.3×64.0	油彩、キャンバス
46	宇治山 哲平	原生林	1956	65.3×38.0	油彩、キャンバス
47	宇治山 哲平	阿吽	1972	100.0×100.0	油彩、キャンバス
48	宇治山 哲平	No. 309 朝陽	1973	89.5×59.5	油彩、キャンバス
49	宇治山 哲平	精 No. 376	1975	110.8×144.3	油彩、キャンバス
50	今井 俊満	鯉のぼり-大分-	1987	200.0×1000	アクリル、キャンバス
51~158	風倉 匠	Kles`s324	1972-2002	11.0×9.0×5.1	水性絵具、木他 (108点セット)

常設展示室 4

159	田能村 竹田	花卉図 (石榴)	1833	115.7×38.8	紙本墨画淡彩
160	田能村 竹田	柳陰捕魚図	1828頃	118.5×42.5	絹本着色
161	田能村 竹田	松鶴図	1828	各図51.7×44.6	絹本着色
162	帆足 杏雨	秋水野航図	1837頃	155.2×52.0	紙本墨画淡彩
163	田能村 竹田	君子延年図	1830-35	26.4×18.3	紙本淡彩

No.	作 者	作 品 名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
164	田能村 竹田	盆卉図	1833	29.3 × 30.8	紙本淡彩
165	生野 祥雲斎	乱菊	1964	133.5 × 285.0 × 50.0	竹、籐

3.4. 収蔵品小企画

3.4.1. ゴヤ・銅版画「戦争の惨禍」

—ナポレオンの時代におけるスペイン民衆の叫び

概要 本展では、ゴヤの代表的な連続銅版画「戦争の惨禍」80点を一堂に展覧した。

会期 平成17年4月19日(火)～6月26日(日)

会場 企画展示室2

出品点数 80点

観覧者数 3,530人

観覧料 一般300(250)円／高大生200(150)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※上記料金で常設展も観覧可

印刷物 ・ポスターB2判・チラシA4判

(担当 岩尾)

No.	作品名	寸法(cm)	素材・技法	備考
1～80	戦争の惨禍 1～80	17.5×22.0他	エッチング、ドライポイント他	80点セット

3.5. 合併記念展

3.5.1. <合併記念> 大分市美術館所蔵品展

- 概要 本展は、平成17年1月、大分市・佐賀関町・野津原町の合併が実現したことを記念して開催したもの。文化勲章受章者である福田平八郎、高山辰雄はじめ、パリ画壇で活躍し、注目を集めた佐藤敬、ネオ・ダダのリーダー的存在であった吉村益信といった大分ゆかりの作家の代表作を含む館所蔵の優品を、佐賀関・野津原の両地域の会場で展示した。
- 会期 <佐賀関会場>平成17年11月9日(水)～13日(日)
<野津原会場>平成17年11月23日(水)～27日(日)
- 会場 <佐賀関会場>佐賀関公民館(大分市関2178番地)
<野津原会場>野津原支所(大分市野津原800番地)
- 主催 大分市美術館
- 後援 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分
- 出品点数 <佐賀関会場>30点、<野津原会場>25点
- 観覧者数 2,047人
<佐賀関会場>928人
<野津原会場>1,119人(内磯崎模型展示場685人)
- 観覧料 無料
- 印刷物 ・チラシA4判
- 関連記事 「郷土の画家の作品を知って」『大分合同新聞』11月11日

(担当 岡村 岩尾)

3.6. 大分市美術展覧会

3.6.1. 第40回大分市美術展覧会

概 要 多様で豊かな文化を創造する市民の育成をめざして、美術各分野における、発表と鑑賞の場として毎年開催している。

会 期 平成18年2月18日(土)～2月25日(土) 9時～18時(初日のみ10時～)

授 賞 式 2月18日(土) 9時30分～10時

休 館 日 2月20日(月)

会 場 アートプラザ

主 催 大分市、大分市教育委員会、大分市美術展覧会実行委員会

後 援 大分県芸術文化振興会議、大分県美術協会、大分市社会教育関係団体連絡協議会、アート・ブラザー、国際ソロプチミスト大分、大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

応募点数 338点

入賞・入選点数 313点

観覧者数 3,250人

観覧料 無料

印刷物 ・リーフレットA4版

4. 教育普及事業

4. 1. ハイビジョンシステム

美術品の色や質感をより忠実に再現するハイビジョンを用い、所蔵品に関する静止画や動画番組等の美術情報を提供している。

4. 1. 1. ハイビジョン番組

オリジナル静止画(ホール、ギャラリーI)

1	富春館の世界一帆足家をめぐると作品一	10分
2	水に描かれた福田平八郎の世界	7分
3	祥雲齋に見いだされた竹の造形美	7分
4	日本画 高山辰雄の世界一その作品と歩み一	6分
5	抽象絵画への招待	9分
6	大分の美術・日本画	8分
7	大分の美術・洋画	8分
8	浜田知明一眼に見えぬ鉄格子の中で一	6分
9	田能村竹田『桃花流水図』を読む	7分
10	ふるさとの風景・大分	7分
11	四季の趣 江戸絵画に見る	7分
12	写実と装飾の間で一福田平八郎一	7分
13	加納光於 版画の世界	7分

オリジナル動画(ホール)

1	風光り水澄む郷・大分 高山辰雄画伯のふるさと	15分
2	1994 高山辰雄	30分
3	投華 密教に入る	15分
4	見えない鏡一洋画家・糸園和三郎の世界一	15分
5	竹をきわめる一生野祥雲齋一	15分
6	わが故郷・大分 日本画家 高山辰雄	19分

静止画(ホール、ギャラリーII)

ハイビジョン美術館「美術のたのしみ」		各6分	
1	ひとの顔	6	いきものの姿
2	ひとのかたち	7	ものがたり
3	人々の暮し	8	木と草花
4	踊るひと	9	幻想 ファンタジー
5	暮らしの中の静物	10	いろとかたちのリズム

エルミタージュ美術館 I

各 6 分

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 華麗なる美の殿堂 | 6 イタリア・ルネサンスの精華 |
| 2 バロックの巨匠 レンブラント | 7 ヴェネツィアのルネサンス |
| 3 レンブラント 肖像画の世界 | 8 自然をみつめて |
| 4 レンブラント 聖書の世界 | コローとバルビゾン派 |
| 5 ルネサンスの幕開け | 9 光と色彩の画家 モネ |
| | 10 印象派の人物画 |
| | ルノワールと仲間たち |

エルミタージュ美術館 II

各 6 分

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 フランドル絵画の黄金期-
ルーベンスと弟子たち | 6 近代絵画の父 セザンヌ |
| 2 フランスの古典 プッサンとロラン | 7 楽園を求めて-ゴッガンとゴッホ |
| 3 市民絵画の誕生-
17 世紀オランダ絵画 | 8 パリの世紀末-ナビ派 |
| 4 スペイン絵画の光と影 | 9 色彩への情熱-フォーブの画家 |
| 5 雅の極地-ロココ絵画 | 10 20 世紀の巨匠-ピカソ |

オルセー美術館 I

各 7 分

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 印象派の殿堂 オルセー美術館 | 6 動きへの探究 ドガと踊り子たち |
| 2 リアリズムの巨匠 クールベ | 7 ヴァン・ゴッホ 炎の生涯 |
| 3 大地への讃歌 ミレー | 8 20 世紀芸術への架け橋 |
| 4 セーヌの光に魅せられて モネ | ポンタヴェン派からナビ派へ |
| 5 光と大地の叙事詩 シスレーとピサロ | 9 20 世紀絵画の父 セザンヌ |

フィレンツェ・ルネサンス I

各 7~8 分

- 1 ルネサンスの光と影 花の都フィレンツェ
- 2 フィレンツェの大きな屋根 建築家ブルネレスキの創造
- 3 ルネサンスへの扉 洗礼堂をめぐるコンクール
- 4 革新の波 ジェットからマザッチオへ
- 5 ルネサンスの遺産 ウフィッツィ美術館 I
- 6 ボッティチェリの春 ウフィッツィ美術館 II
- 7 フィレンツェの花形画家 ボッティチェリ
- 8 魂を刻みつづけて ミケランジェロ

シカゴ美術館コレクション名作選 浮世絵 19世紀と20世紀の美術

1	浮世絵 春信・歌麿・写楽	9分
2	浮世絵 北斎・広重	8分
3	新しい自然の発見 ～ロマン派からバルビゾン派へ	10分
4	光の讃歌～フランス印象派の華	11分
5	光と闇から後期印象派の精髓	14分
6	20世紀美術の曙	15分
7	アメリカ美術のメッセージ	13分

日本美術の至宝 日本の巨匠たち

各9～12分

1	雪舟	2	狩野 永徳
3	長谷川 等伯	4	俵屋 宗達
5	尾形 光琳	6	池 大雅
7	与謝 蕪村	8	浦上 玉堂
9	円山 応挙	10	伊藤 若冲

4.1.2. ハイビジョンデータベース

タッチペンで所蔵品を検索でき、子どもから大人まで広く利用。作品のデータは、作家名・ジャンル・制作年代・出身地・おすすめ作品の5つのメニューから検索でき、作品の全図・拡大画像・作品解説・作家解説・用語解説などを画面上に呼び出すことができる。

4.1.3. 公開データベース数

677作品 洋画(油彩、水彩) 111/日本画 226/現代美術 60/文人画(豊後南画) 98/版画 99/工芸 34/彫刻 25/その他 24

4.1.4. ハイビジョン静止画工房

画像に文字情報や音声などを加えて編集し、番組を制作することができる。

4.2. アートシアター

展覧会に関するVTR等の上映

時間:13時30分～ (7月18日(月)、8月14日(日))は11時30分にも上映)

場所:ハイビジョンホール

	開催日	内容(上映ソフト)	人数
1	4月30日(土)	わが故郷大分 日本画家 高山辰雄 スペイン絵画の光と影 ゴヤ 魅惑のマハ	31
2	5月3日(火)	同 上	35
3	6月12日(日)	わが故郷大分 日本画家 高山辰雄 ゴヤ 魅惑のマハ 幻想—ファンタジー	14
4	7月18日(月)	こんにちはチェブラーシカ ピオネールに入りたい チェブラーシカと怪盗おばあさん チェブラーシカ学校へ行く	163
5	8月14日(日)	同 上	215
6	9月11日(日)	不思議あそび ものがたり いろとかたちのリズム	61
7	10月9日(日)	ネオダダJAPAN1958-1998 ネオダダJAPAN1958-1998及び関連イベントの記録	19
8	11月3日(日)	芸術はアクション ポロック/白髪一雄 20世紀美術の曙	26
9	12月11日(日)	絵に見る日本の美術のよさ 池 大雅 尾形 光琳	35
10	1月8日(日)	セザンヌ/コロドー/ミレー、クールベ リアリズムの巨匠 クールベ	72
11	2月12日(日)	セザンヌ/コロドー/ミレー、クールベ 新しい自然の発見 ～ロマン派からバルビゾン派へ	89
12	3月12日(日)	セザンヌ/コロドー/ミレー、クールベ 大地の讃歌 ミレー	53
		計	813

4.3. 芸術に親しむ講座

ハイビジョンホール等の利用を進める中で、市民の生涯学習の場として、「芸術に親しむ講座」を開講した。

場所:ハイビジョンホール(1のみ研修室)

	講座名	日時	内容	講師	人数
1	美術①絵手紙を作ろう	7月20日(水) 10時30分～12時	暑中見舞い用の絵手紙を作る	安部康英氏 (元中学校校長)	24
2	音楽①リュートとオカリナの響きを楽しむ	8月27日(土) 15時～16時30分	ビウエラとオカリナのレクチャーコンサート	小川伊作氏 (大分県立芸術文化短期大学) 坪内千恵美氏(オカリナ奏者)	109
3	美術②戦後の前衛美術について	9月24日(土) 13時30分～15時	戦後の前衛美術についての講話	菅章(学芸課長)	42
4	美術③掛軸や屏風を詳しく見よう	11月26日(土) 13時30分～15時	美術館所蔵の掛軸や屏風についての講話	野田菜生子(学芸課職員)	54
5	映画 映像とシナリオのあいだ	11月27日(日) 13時～16時	シナリオ作家によるシンポジウムと映画上映	寺脇研氏(映画評論家) 他シナリオ作家3名	65
6	音楽②フランス音楽について	2月18日(土) 14時30分～16時	フルートとハーブのレクチャーコンサート	麻生恭子氏 (大分県立芸術文化短期大学) 荒木真子氏((九州交響楽団)	95
計					389

4.4. アートカレッジ

市民に美術への興味や関心を深めてもらうために開講した。

時間:13時30分～15時

場所:ハイビジョンホール

	開催日	講義内容	展覧会解説	人数
1	6月24日(金)	東洋の「山水画」と西洋の「風景画」 (宗像健一顧問)	ゴヤ・銅版画「戦争の惨禍」 (岩尾学芸員)	93
2	7月22日(金)		「幻のロシア絵本展」 (岡村学芸員)	84
3	8月26日(金)		アート・ワンダーランド2005 (大野指導主事)	78
4	9月30日(金)		戦後大分の美術Ⅱ(大神学芸員)	82
5	10月21日(金)		常設展自由観覧	67
6	11月25日(金)		近世絵画の水脈(野田学芸員)	72
計				476

4.5. 子ども講座

「たのしんで・みて・まなぶ」というキャッチフレーズにそって、児童・生徒を対象に創作・鑑賞の場を提供した。

4.5.1. 夏休み子ども講座

時間:10時30分～15時

場所:チャイルドハウス、研修室他

	講座名	開催日	内容	人数
1	マトリョーシカ (入れ子人形)を つくろう	7月28、29 日、8月18、1 9、23、24日	「幻のロシア絵本展」関連講座として、ロシアの伝統的工芸品マトリョーシカ(入れ子人形)のデザインと彩色を行った。 ・講師:渡辺恭英氏(画家)、大野指導主事、美術館ボランティア	子ども 178 保護者 108
2	オリジナル絵本を つくろう	8月1～3日	細長い紙を折るところから始め、各自1冊ずつ鍵付きのリバーシブル手づくり絵本を制作した。 ・講師:廣瀬剛氏(大分大学講師)、大学関係者	子ども 61 保護者 41
計				388

4.5.2. ハイビジョン紙芝居と親子美術教室

ボランティアとの協働によるハイビジョン紙芝居

時間: 13時15分～13時30分

場所: ハイビジョンホール

	開催日	内容	人数	ボラン ティア
1	5月14日(土)	宇治山哲平のお話	57	6
2	6月11日(土)	〃	54	5
3	7月9日(土)	上野の森の青い鳥(オリジナル)	43	4
4	7月23日(土)	〃	49	4
5	8月20日(土)	〃	59	5
6	8月27日(土)	〃	63	5
7	9月10日(土)	〃	41	4
8	10月8日(土)	モネのお話	33	4
9	11月12日(土)	小さいねずみ(名画を背景に童話の読み聞かせ)	26	5
10	12月10日(土)	ドガのお話、十二支のお話	25	5
11	1月14日(土)	田能村竹田のお話、福田平八郎のお話	32	6
12	2月11日(土)	ゴーギャンのお話、福田平八郎のお話	30	5
13	3月11日(土)	ピカソのお話、福田平八郎のお話	30	6
計			542	64

ボランティアとの協働による親子美術教室

時間: 13時30分～15時

場所: 常設・企画展示室(3、9のみ常設展示室、研修室)

	開催日	内容	人数	ボラン ティア
1	5月14日(土)	常設展・ゴヤ展鑑賞	45	8
2	6月11日(土)	〃	44	8
3	7月9日(土)	ワンダーランド展鑑賞・造形活動(ぬりえ等)	36	6
4	7月23日(土)	ワンダーランド展・ロシア絵本展鑑賞	40	5
5	8月20日(土)	〃	48	5
6	8月27日(土)	〃	52	5
7	9月10日(土)	〃	32	5
8	10月8日(土)	常設展・大分前衛美術展鑑賞	27	4
9	11月12日(土)	常設展鑑賞・造形活動(紙工作)	22	4
10	12月10日(土)	常設展・近世絵画の水脈展鑑賞	20	5
11	1月14日(土)	常設展・クールベ美術館展鑑賞	26	4
12	2月11日(土)	〃	25	4
13	3月11日(土)	〃	24	5
計			441	68

4.6. サテライト鑑賞教室

所蔵作品鑑賞の機会を寄り多く提供するために市内小中学校等において「サテライト鑑賞教室」を実施した。

実施コース

Aコース わが国を代表する福田平八郎、高山辰雄について知る

ねらい：大分市出身の福田平八郎、高山辰雄について知り、その作品のよさや美しさを味わう。

内 容・大分市美術館ボランティア「こもれ美」による紙芝居「福田平八郎」鑑賞
・福田、高山の作品鑑賞
・日本画の用具、材料について知る

Bコース 大分の伝統的工芸に学ぶ

ねらい：竹工芸初の人間国宝、生野祥雲齋を通して竹細工や竹芸術について学ぶ。

内 容・竹について
・生野祥雲齋について

Cコース 豊後南画の創始者、田能村竹田について知る

ねらい：田能村竹田について知り、その作品のよさや美しさを学ぶ。

内 容・美術館ボランティア「こもれ美」による紙芝居「田能村竹田」鑑賞
・豊後南画について
・竹田の作品(掛軸)鑑賞

Dコース いろいろに描かれた動物たちを見る

ねらい：様々なジャンルの、動物作品のおもしろさを味わう。

内 容・動物をテーマとした日本画・油絵・彫刻・掛軸等の鑑賞
・それぞれの作品について、作者、技法、時代背景などを知る。

Eコース いろいろな人物表現を見る

ねらい：様々なジャンルの作品の人物表現を味わう。

内 容・人物をテーマとした日本画・洋画・版画等の鑑賞
・それぞれの作品について作者、技法、時代背景などを知る。

Fコース 水墨画にチャレンジ

ねらい：墨で絵を描くことで、水墨画の表現のおもしろさや美しさを学ぶ。

内 容・釘宮對岩(大分県出身)の作品鑑賞
・実技(習字道具が必要)

実施状況

	開催日	会場・学年	人数	内容	担当者
1	7月7日(木)	穂田東小学校 6年生	101	水墨画入門	岩尾・大神・ 佐藤
2	7月8日(金)	賀来中学校 3年生	56	水墨画入門	岩尾・大野・ 佐藤
3	9月27日(火)	明治小学校 5年生	160	福田平八郎、高山辰雄 について	宮崎・佐藤・ 大野
4	10月19日(水)	竹中小学校 全学年	37	3枚の人物画について	宮崎・佐藤・ 大野
5	10月27日(木)	西の台小学校 6年生	156	水墨画入門	大神・佐藤・ 大野
6	11月27日(日)	大分西中学校 希望の保護者と生徒	67	コースターを作る (四つ目網)	大神・大野・ 藤澤

4.7. 職場体験

学校からの要請に応え、監視体験、学芸員体験など職場体験の場を提供した。

	開催日	学校名	人数
1	6月23日(木)	王子中学校	5
2	8月23日(火)	滝尾中学校	5
3	8月24日(水)	城南中学校	5
4	9月13日(火)	明野中学校	4
5	9月14日(水)	判田中学校	5
6	9月22日(木)	南大分中学校	4

4. 8. ボランティア研修講座

大分市美術館では、積極的に美術教育普及活動の推進を計るため、市民による「美術館ボランティア」を設置している。本講座は、本館で活躍中の美術館ボランティアを対象に知識、技能をより高めるとともに、ボランティア相互の交流を目指したものである。

研修期間：平成17年4月28日（木）～平成18年3月16日（木）

時間：13時30分～15時30分

場所：ハイビジョンホール(1・7・9は研修室、8は展示室)

	開催日	内容	講師	人数
1	4月28日（木）	総会		ボランティア登録数： 101
2	5月19日（木）	講話「現代美術の原点 マルセル・デュシャン」	菅	
3	6月16日（木）	企画展・常設展レクチャー	岡村・大野	
4	8月9日（火）	講話「ロシア・アヴァンギャルドと抽象絵画のはじまり」	菅	
5	10月20日（木）	講演「東西南北こぼれ話・文章の書き方について」	南里 俊策 氏	
6	11月22日（火）	講話「リアリズムから印象派へ」	菅	
7	12月22日（木）	「掛け軸について」講話と実演	橋本 好生 氏	
8	2月23日（木）	ギャラリートーク(常設展を中心に)	ギャラリートークグループ	
9	3月16日（木）	講話・意見交換会	学芸顧問 宗像健一 他	

4.9. ボランティア活動

大分市美術館ボランティアは、学習ボランティアであり施設ボランティアである。美術館という施設において来館者（学習者）に対して、資料、解説（ギャラリートーク）、ワークショップ、広報の4つのグループに分かれ、下記のような活動を行った。

（1）資料グループの活動

活動日 合同活動日 毎月第4水曜日 10:00～12:00

個人活動日 毎週水曜日、金曜日 10:00～12:00

原則月3回

活動内容 ・新聞記事スクラップの整理 ・作家別資料ファイルの整理
・図書の整理 ・パンフレット・チラシの整理 ・その他

（2）解説（ギャラリートーク）グループの活動

学習会 毎週火曜日 13:30～15:30

ギャラリートーク

第2、第4土曜日 13:30～14:30

団体対応 美術館から要請にもとづき常設展示室の解説を中心に協力した。小学校、中学校、その他市の公募による美術館親子体験の団体等に対応し、回数は30回であった。

（3）ワークショップグループの活動

学習会 毎週月曜日 10:00～12:00

ハイビジョン紙芝居

第2土曜日 13:15～13:40、団体の希望に合わせ、随時いろいろな番組を上演した。

サテライト鑑賞教室の補助

美術館からの要請にもとづき市内の小・中学校へ同行し、作家解説の紙芝居の上演等を行った。

夏休み子ども講座の講師、助手

造形活動の助手等として子どもたちへの指導や補助を行った。

（4）広報グループの活動

学習会 毎週木曜日 10:30～12:00

広報紙の発行

- ・2005. 7月発行 定期紙 18号
- ・2005. 11月発行 定期紙 19号
- ・2006. 3月発行 定期紙 20号

4. 10. 博物館実習

実習生 3名

期間 平成17年8月19日(金)～8月29日(月)

実習カリキュラム

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
時間	8月19日	8月20日	8月21日	8月23日	8月24日
10時	事務連絡	洋画・版画について (岩尾)	ロシア展について (岡村)	親子講座 (大野)	親子講座 (大野)
11時	学芸員の心構えについて (菅)				
12時	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13時	展覧会について (菅課長)	洋画・版画について (岩尾)	ロシア展について (岡村)	親子講座 (大野)	親子講座 (大野)
14時			ロシア展 展示解説聴講 (岡村)		
15時					
16時			ロシア展について (岡村)		
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日
10時	教育普及について (宮崎)	日本美術(近現代)について (大神)	教育普及について (宮崎)	日本美術(近世)について (野田)	竹工芸について (藤沢)
11時					
12時	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13時	日本美術(近現代)について (大神)	アート・カレッジ聴講 (佐藤)	親子美術教室聴講 (岩尾)	日本美術(近世)について (野田)	竹工芸について (藤沢係長)
14時					
15時		美術館の各種講座について	芸術に親しむ講座聴講		
16時		(佐藤)	(佐藤)		

4.11. 各種刊行物

美術館活動への参加、理解をより促進するため、当館の展示、調査・研究、教育普及等の活動に伴う、図録、ワークシート、年報、ニュース等の刊行物を発行した。

(1) 展覧会関連

名 称	規格	頁数
大分前衛美術会／七人の会展 カタログ	29×22 cm	56
アートワンダーランド 2005・幻のロシア絵本		
1920-30年代展ワークシート	A 5	16
近世絵画の水脈 ワークシート	A 4	4
磯崎新の○△□を探そう ワークシート	A 4	4
第40回大分市美術展覧会 リーフレット	A 4	6

(2) 定期刊行物等

名 称	規格	頁数
平成16年度 大分市美術館年報	A 4	76
大分市美術館ニュース Vol21	A 4	4
大分市美術館ニュース Vol22	A 4	4
大分市美術館ニュース Vol23	A 4	4
大分市美術館ニュース Vol24	A 4	4
大分市美術館ニュース Vol25	A 4	4

5. 資料収集事業

5.1. 美術品等収集事業

ジャンル別収集美術品等点数(平成18年3月31日現在)

	ジャンル	購入	寄贈	合計	寄託
1	日本画	256 (11)	138 (5)	394 (16)	9 (1)
2	洋画	174 (9)	81 (5)	255 (14)	4 (3)
3	彫刻	140	7 (1)	147 (1)	1
4	工芸	41 (6)	21 (1)	62 (7)	1
5	書	31 (4)	24	55 (4)	1
6	写真	68	11	79	0
7	版画	692	50 (1)	742 (1)	2
8	水彩	5	3 (1)	8 (1)	0
9	素描	18	1	19	0
10	デザイン	0	0	0	0
11	資料	0	8	8	1
12	その他	34	11	45	0
	合計	1459 (30)	355 (14)	1814 (44)	19 (4)

() 内は17年度収集点数

平成17年度収集作品

■日本画

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法(cm)	備考
1	田能村 竹田	鐘馗図	1822年	紙本墨画淡彩	97×27.3	購入
2	森 嶮谷	桜花群雀図	19世紀前半	紙本墨画淡彩	117.5×36.5	購入
3	渡辺 拈華	仿竹田紙雛図	19世紀前半	紙本墨画淡彩	95.5×29.5	購入
4	渡辺 拈華	仿竹田淡彩山水図	19世紀前半	紙本墨画淡彩	110.2×33.5	購入
5	田近 竹邨	寒柯帰漁図	1921年	紙本墨画淡彩	128.5×88.5	購入
6	福田 平八郎	飛魚	1926年頃	絹本着色	44.5×57.7	購入
7	福田 平八郎	紅梅	1941年頃	紙本着色	54.5×39.2	購入
8	福田 平八郎	藪椿に鶯	1936年	紙本着色	27×69	購入
9	高倉 観崖	長江春嵐・空山凍雲	1936年	絹本墨画淡彩	各143×28	購入
10	森 秋艇	花谿の隠図	1866年	紙本墨画淡彩	134.5×47	購入
11	牧 皓堂	山水図	不詳	紙本墨画淡彩	136×32	購入
12	秦 米陽	寒林独坐図	1927年	絹本墨画淡彩	128×42	寄贈
13	首藤 詔子	絵巻に偲ぶ	1985年	紙本着色	162.1×130.3	寄贈
14	宮崎 喜恵	あだし野	1990年	紙本着色	162.1×130.3	寄贈
15	鈴木 忠実	霧を行く	2002年	紙本着色	131×324	寄贈
16	松本 古村	山中高士図	不詳	絹本着色	128.5×50.5	寄贈

■洋画

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	備考
17	佐藤 敬	空間の通力	1973年	油彩・キャンバス	116×179	購入
18	佐藤 敬	独唱	1936年	油彩・キャンバス	197.1×273.1	購入
19	佐藤 敬	水の姿勢	1937年	油彩・キャンバス	195×265	購入
20	佐藤 敬	雪	1938年	油彩・キャンバス	193×124	購入
21	佐藤 敬	Notre Dame du Paris	1932年	油彩・キャンバス	54×64	購入
22	佐藤 敬	クラークフィールド攻撃	1942年	油彩・キャンバス	53×44	購入
23	佐藤 敬	雨期来る (マニラ)	1942年	油彩・キャンバス	31×41	購入
24	権藤 種男	高崎山遠望	不詳	油彩・キャンバス	27×38	購入
25	佐藤 敬	月	1938年	油彩・キャンバス	194×130	購入
26	飯尾 寿夫	植物Ⅱ	1972年	油彩・キャンバス	162×130	寄贈
27	脇 正人	89作品 (6)	1990年	油彩・キャンバス	130×130	寄贈
28	三浦 勉	荊の塔	1958年	油彩・板	150.3×61	寄贈
29	児玉 成弘	街角1987-1	1987年	油彩・キャンバス	181.8×227.3	寄贈
30	十時 良	地表の風94-6	1994年	ミクスドメディア	162.1×162.1	寄贈

■彫刻

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)	備考
31	新名 隆男	風景	2004年	アクリル	H70×40×20	寄贈

■工芸

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	備考
32	山口 明	炎舞	2004年	竹・籐	高58 幅58 奥31	購入
33	田辺 信幸	櫛目組竹飾籠「宴」	2003年	竹・籐	高43 径36.6	購入
34	本田 卿雲	篠竹荒組花籠「草垣」	1988年	竹	高25 径23.5	購入
35	生野 祥雲齋	紫竹投入華籠	1932年	竹	高46 径24	購入
36	生野 祥雲齋	紫竹炭斗	1932年頃	竹・籐	高23 径20.8	購入
37	生野 祥雲齋	紫竹かけ華籠	1932年頃	竹	高26.8 幅13.8 奥11.2	購入
38	生野 祥雲齋	紫竹宗全華籠	1969年頃	竹	高30.6 径27	寄贈

■書

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	備考
39	田能村 竹田	書簡 文化2年 伊藤鏡河宛	1805年	紙本墨書	15×25.4	購入
40	田能村 竹田	書簡 文化3年 伊藤鏡河宛	1806年	紙本墨書	16.4×31.5	購入
41	田能村 竹田	書簡 天保6年 田能村太一宛	1835年	紙本墨書	16.2×32	購入
42	田能村 竹田	書簡 天保6年 田能村太一宛	1835年	紙本墨書	16.2×33.4	購入

■版画

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	備考
43	橋本 興家	笑意軒と石灯籠	不詳	木版	53×41.5	寄贈

■水彩

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	備考
44	後藤 真吉	高崎山	不詳	水彩、和紙	41.5×53	寄贈

5. 2. 平成17年度作品貸出実績

No.	作家名	作品名	展覧会名
			会場：会期
1	不詳	張良	平成17年度企画展「おはなしの絵—物語と絵解き—」 大分県立歴史博物館 平成17年7月5日（火）～平成17年9月19日（月）
2	田能村竹田 田能村竹田 田能村竹田 田能村竹田	暗香疎影図 富士図 桃花流水図 月下芦雁図	特別展覧会「竜馬の翔けた時代」 京都国立博物館 平成17年7月16日（土）～8月28日（日）
3	田能村竹田	花卉図 他62点	「文人の夢・田能村竹田の世界」展 静岡県立美術館 平成17年9月30日（金）～11月6日（日） ※大分市美術館との交換展
4	帆足杏雨	淡彩山水図	特別展「南画の里竹田、文人書画展」 竹田市立歴史資料館 平成17年10月29日（土）～11月20日（日）
5	宇治山哲平 宇治山哲平	爽 樹No.12	宇治山哲平展 東京都庭園美術館 平成18年2月4日（土）～4月9日（日）
6	鬚嘔	バタフライ	鬚嘔展 福井県立美術館 平成18年3月1日（水）～3月30日（木）
7	吉村益信 吉村益信	銀座の吉村益信 と進駐軍 銀座の吉村益信	「東京—ベルリン／ベルリン—東京」展 森美術館 平成18年1月28日（土）～5月7日（日） ベルリン国立美術館 6月7日（水）～10月3日（火）
	合計	のべ73点	7展覧会／8会場

5. 3. 図書

4,561冊（平成18年3月31日現在）

5. 4. 映像資料

- | | |
|--------------------------|--------------|
| (1) 高山辰雄 | (26分) VHS |
| (2) 日本の巨匠シリーズ 日本画家 中島 千波 | (26分) VHS |
| (3) 版画の技法と表現 木版画 | (23分23秒) VHS |
| (4) ネオ・ダダビデオ R1 | (70分26秒) D2 |
| (5) ネオ・ダダビデオ R2 | (71分1秒) D2 |
| (6) ネオ・ダダ展イベントビデオ | (44分30秒) D2 |
| (7) 世界・美の旅14 ゴヤ | (30分) VHS |

6. 管理運営

6.1. 職員数

年度別推移

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
美術館管理課	7	8	9	10	11	7(1)	7(1)
アートプラザ	8(3)	7(3)	7(3)	7(3)	7(4)	7(4)	7(4)
美術館学芸課	9	11	11	11	11	10	10
計	24(3)	25(3)	25(3)	25(3)	24(4)	24(5)	24(5)

(平成17年4月1日現在) () は非常勤嘱託職員内数
美術館管理課及び美術館学芸課は平成10年12月1日設置

平成17年度

職名	次長	課長	課長補佐、主幹	係長、主査	主任	主事	指導主事	技師	事務員	嘱託	合計
館長	1										1
美術館管理課		1	1	1	2					1	6
アートプラザ			1	2						4	7
美術館学芸課		1	1	1	5		2				10

* 嘱託職員 美術館管理課1、アートプラザ4

6.2. 事務分掌

課	係	事務分掌
管理課	管理係	(1) 美術館の施設及び設備の維持管理並びに使用許可に関すること。 (2) 大分市美術館協議会に関すること。 (3) その他学芸課の主管に属さないこと。
	アートプラザ	(1) アートプラザの施設及び設備の維持管理並びに使用に関すること。 (2) 利用者に対する指導及び助言に関すること。 (3) 磯崎新建築資料等の保管及び展示に関すること。
学芸課	学芸係 普及係	(1) 美術品及び美術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。 (2) 美術に関する専門的な調査及び研究に関すること。 (3) 寄託及び寄贈に係る美術品等の選定に関すること。 (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。 (5) 美術に関する展覧会、講演会、研究会等の開催及び奨励に関すること。 (6) 他の美術館等との連絡、協力、情報の交換及び美術品等の相互貸借等に関すること。 (7) 美術の教育及び普及に関すること。 (8) 大分市美術館美術品収集委員会に関すること。 (9) その他美術館の行う事業に係る専門的事項に関すること。

6.3. 利用状況

(1) 利用者内訳

年度	展覧会			研修室		フリーゾーン						美術館 展示施 設等の 利用者 の合計 (G)= A+B+F	レスト ラン (H)	美術館 施設利 用者総 計 (I)= G+H	チャイ ルドハ ウス (J)	美術館 出前教 室(K)	美術館全 体の総利 用者 再 計(L)=I +J+K	
	常設 展	特別 展	小計 (A)	件数	利用者 (B)	ハイビジョンホール			小計 (C)	ミュー ジウム ショップ (D)	その他 (図書 コーナー、 ティール ラウンジ 等)(E)							フリー ゾーン 中計 (F)=C+ D+E
						館事業 講座	特別展 関連講 座	その他										
10	45,226	43,556	88,782	7	263					4,337		4,337	93,382	10,027	103,409			103,409
11	77,837	79,900	157,737	122	5,085	1,439			1,439	11,048		12,487	175,309	32,040	207,349	143	587	208,079
12	66,956	81,684	148,640	79	3,532	1,982	257	1,600	3,839	10,430		14,269	166,441	23,672	190,113	120	791	191,024
13	49,964	67,206	117,170	126	6,806	1,621	269	2,000	3,890	8,632		12,522	136,498	21,120	157,618	194	1,633	159,445
14	33,226	86,488	119,714	136	5,936	1,563	241	2,000	3,804	4,378		8,182	133,832	14,861	148,693	1,465	1,188	151,346
15	40,774	70,660	111,434	154	8,073	2,026	17,043	933	20,002	10,421		30,423	149,930	8,421	158,351	1,078	1,566	160,995
16	33,492	29,705	63,197	155	7,885	5,056	561	2,209	7,826	3,981	14,121	25,928	97,010	43,198	140,208	1,020	1,269	142,497
17	35,594	32,218	67,812	149	8,116	5,822	1,848	1,881	9,551	6,006	23,779	39,336	115,264	41,760	157,024	414	566	158,004
累計	383,069	491,417	874,486	928	45,696	19,509	20,219	10,623	50,351	59,233	37,900	147,484	1,067,666	195,099	1,262,765	4,434	7,600	1,274,799

(2) 企画展(特別展) 観覧者

展覧会名	開催期間	日数	観覧者	一日平均
幻のロシア絵本展	平成17年7月15日～9月11日	51	11,759	231
大分前衛美術会／7人の会	平成17年9月21日～11月7日	42	3,653	87
近世絵画の水脈	平成17年11月18日～12月25日	33	4,701	143
クールベ美術館展	平成18年1月7日～3月21日	65	12,105	187

(3) 年度別展覧会開催日数

年度	10	11	12	13	14	15	16	17	累計
常設展	37	307	300	309	300	306	304	301	2,164
特別展	30	247	242	267	247	251	160	191	1,635

6.4. 建築設備概要

建物概要	所在地	大分市大字上野 865 番地
	設計	内井昭蔵建築設計事務所
	監理	大分市土木建築部建築課、内井昭蔵建築設計事務所
	施工	建築: 清水建設・佐伯建設特定建設工事共同企業体 電気: 東芝プラント建設・大徳電業特定建設工事共同企業体 空調: ダイダン・但馬設備工業特定建設工事共同企業体 給排水衛生: 富士輝工業株式会社 昇降機: 株式会社東芝 都市ガス: 大分瓦斯株式会社
	工事期間	平成 8 年 12 月 18 日～平成 10 年 9 月 30 日
	総事業費	7, 090, 129 千円
建築概要	敷地面積	129, 837 m ² (上野丘公園全体)
	建築面積	美術館 6, 570. 65 m ² 屋外便所 52. 86 m ² 計 6, 623. 51 m ²
	延床面積	美術館 9, 036. 48 m ² 屋外便所 48. 52 m ² 計 9, 085. 00 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造地上 2 階建
	屋根	外断熱アスファルト防水押えコンクリート、鉛破覆銅板立ハゼ葺・一部瓦棒葺・アルミダイキャスト
	外壁	珪藻土搔落し、洗い出し、金ゴテ押え、鉛破覆銅板平葺・菱葺、せつ器質タイル張、アルミダイキャスト、アルミ押出リブパネル、諫早石ソフビシヤン
電気設備	電力引込	3 相 3 線 6.6KV 60HZ 1 回線受電地中引込
	受変電	屋内キュービクル式受配電盤 設備受量 1800KVA
	非常用	発電機 1 台 ガスタービン 375KVA 出力 610PS 蓄電池(非常照明用)1 組 無停電電源装置 1 式
弱雷設備	設備内容	電話設備、放送設備、インターホン、難聴者設備(フラットループアンテナ)、盲人誘導装置(コントロールボックス、スピーカー6)、電気時計装置、ローカルアンプワゴン、研修室 AV 装置(ビデオプロ)ジェクター、電動昇降スクリーンほか)
空調設備	熱電	直焚吸収冷温水機 2 空冷スクリュウヒートポンプチラー1 冷却塔 2
	空調機	4 管式 AHU 単一ダクト方式(24 時間系統)、2 管式 AHU 単一ダクト方式(一般系統)、酸アルカリ除去、フィルター装置、パネルヒーターパッケージ型空調機
	換気	給気送風機、排気送風機、空調換気扇、オゾン脱臭機
給排水	給水	圧力方式(一部直接給水)
衛生設備	排水	構内: 分流方式 構外: 合流方式(公共下水道)

昇降機 乗用エレベータ 油圧 2 段速度制御方式 車椅子仕様 定員 13 名 / 1 基、
油温油圧補償制御方式 車椅子仕様 定員 11 名 / 2 基
荷物用エレベータ 油圧 2 段速度制御方式 積載量 2,500kg / 1 基
テーブルリフター リフト 1.58m テーブル 1.5m × 3m 荷重 3,000kg / 2 基

6.5. フロア別面積

建築面積（単位：㎡）

美術館	外便所棟	合計
6,570.65	52.86	6,623.51

延床面積（単位：㎡）

企画展示棟	常設展示棟	合計	屋外便所棟	総計
5,841.93	3,194.55	9,036.48	48.52	9,085.00

部門別面積

部門	面積（単位：㎡）	構成比率	室名	面積（単位：㎡）
展示部門	2,097.81	23.2	企画展示室1	428.88
			企画展示室2	429.25
			常設展示室1	495.45
			常設展示室2	237.24
			常設展示室3	195.74
			常設展示室4	79.72
			展示ロビーほか	231.53
教育普及部門	494.68	5.5	ハイビジョンホール	120.68
			ハイビジョンブース	34.88
			ハイビジョン静止画工房	18.24
			研修室	169.94
			図書コーナー	101.77
			ボランティア室	49.17
サービス部門	2,085.96	23.1	ミュージアムショップ	126.1
			エントランスホール	299.94
			レストラン	322.84
			救護室	8.61
			授乳室	19.08
			ティーラウンジ・ロビー他	1309.36
収蔵部門	1,410.13	15.6	収蔵庫1	320.05
			収蔵庫2	229.45
			収蔵庫3	180.66
			収蔵庫4	109.21
			荷解室1・2、荷卸室ほか	570.76
管理部門	593.30	6.6	館長室	32.18
			事務学芸員室	242.93
			会議室1・2	110.79
			中央監視室	54.01
			応接室ほか	153.39
その他	2,354.63	26.0	機械室関係	944.92
			廊下・階段・ELV	897.27
			倉庫・WC等	512.44
合計	9,036.48	100.0		

6.6. 予算

(単位:千円)

項目	年度	平成17年度	
		美術館	アートプラザ
人件費		148,096 (職員17名分 ※嘱託1名分含む)	44,811 (職員7名分 ※嘱託4名分含む)
管理費	委託料	157,922	42,830
	光熱水費	68,052	16,200
	その他	35,368	7,176
	小計	261,342	66,206
人件費+管理費		409,438	111,017
事業費	展覧会事業	81,629	
	教育普及事業	15,145	
	資料関係費	50,000	
	調査研究費	1,050	
	小計	147,824	
合計		557,262	111,017
総計		668,279	

6.7. 利用案内

利用時間・料金

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）。但し、毎月第1月曜日は開館しその翌日の火曜日が休館。年末年始（12月28日～1月4日）。

観覧料

常設展

区分	個人	団体（20人以上）
一般	300円	250円
高・大生	200円	150円

特別展

特別展料金はその都度決定する。

施設使用料

室名	使用料
研修室	1時間につき 1,050円

注 冷暖房期間中は、上表により算定した使用料の4割に相当する額（冷暖房使用料）を加算する。

交通案内

バス JR大分駅から大分バス 大分市美術館・駅裏循環 [大分市美術館] 下車
 タクシー JR大分駅から約10分
 車 大分自動車道/大分I.C. から約10分

6. 8. 条例

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206181.html

6. 9. 条例施行規則

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206191.html

7. アートプラザ

7. 1. 運営方針

ゆとりと豊かさがある生涯学習生活をめざしていく中で、精神的なうるおいと安らぎのある市民生活を実現するため、新しい文化の創造と発信が積極的に行われる場として運営していく。そのために、市民のニーズと活用レベルに応じた対応や、気軽に活用できるためのシステムづくりに力を入れている。さらに、大分市出身の世界的建築家磯崎新氏建築作品の模型や資料の展示を行い、建築理念や思想などを紹介していく。

7. 2. 施設概要

(1) 沿革

昭和 41(1966)年	5月	大分県立大分図書館(磯崎新氏設計)として竣工
昭和 43(1968)年	4月	建築年鑑賞受賞
平成 6(1994)年	8月	大分県立大分図書館新築移転のため閉館
平成 7(1995)年	4月	大分市が無償貸与を受ける
平成 7(1995)年	11月	整備工事設計委託契約締結(磯崎新氏設計)
平成 8(1996)年	9月	整備工事契約締結
平成 9(1997)年	9月	アートプラザ条例制定
平成 9(1997)年	10月	アートプラザ竣工
平成 10(1998)年	2月	アートプラザ開館

(2) 概要

敷地面積	3,686.7 m ²	建築面積	1,599.945 m ²
延床面積	4,081.551 m ²	構造	鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階

7. 3. 業務内容

(1) 貸館業務

市民ギャラリーA・B (1F)

主として個人やグループによる絵画・書・写真などの創作活動の発表の場として利用できる。また、A・Bを同時使用することもできる。

アートホール (2F)

文化・芸術関係団体の展示会場として、また、各種文化講演会や催事の会場として利用できる。

研修室 (2F)

芸術・文化に関する講座や、一般の会議、研修会にも利用できる。

実技室 (2F)

全紙が充分広げられる作業机・版画制作に必要なプレス機・イーゼル・水道設備も整

っている。油絵・日本画・書道・工芸等々、各種制作活動や実技研修に利用できる。

(2) 磯崎新建築資料展示業務 (3F・磯崎新建築展示室)

大分出身の磯崎新は日本が世界に誇る建築家であり、グローバルに活躍している。彼はその前衛的な作品によってのみならず、建築家としては異例な質と量の著書を通じて、世界の建築思潮に大きな影響を与えてきた。

磯崎建築の初期の傑作である当館(旧大分県立大分図書館)の本展示は、彼の作品・言説両面にわたる巨大な足跡の記録である。

特集1

磯崎新 『形態と機能』〜システム・メタファ・ナラティブ・フォーム〜
平成16年11月20日(火)〜平成18年1月29日(日)

特集2

磯崎新の“○△□”を探そう〜大分から世界へ
平成18年2月7日(火)〜平成19年1月末

特集1

平成16年度から引き続き、1960年代から90年代までの磯崎建築について、形態と機能に着目しつつ、さらに時代による手法の変化などに関連付けながら展示を行った。

特集2

今回の展示では子どもたちに、難解とされている磯崎建築に興味を持ってもらうことを目的として次の2つの視点から建築模型などを紹介した。

- (1) 大分とのかかわりを重視し、大分から世界へと羽ばたいた磯崎新の足跡をたどる。
- (2) 子どもたちを楽しんでもらうため、初期から現在に至るまでの磯崎建築に登場する○△□の形に注目して、単純な形から複雑でユニーク、そして面白い建築空間への発展の様子を紹介する。

あわせて、参加しながら鑑賞できるワークシートを作成した。

【建築模型出品目録】 (特集2)

展示室1 スタディールーム

磯崎関連の書籍・VTR・版画作品・活動年譜ほか

展示室2 磯崎新ってどんな人

大分県立中央図書館+大分県医師会館、幼少時の写真パネルほか

展示室3 建築家の誕生

岩田学園、中山邸、富士見カントリークラブ、福岡シティ銀行本店、北九州市立美術館+アネックス北九州市立中央図書館

展示室4 飛躍する建築家

群馬県立近代美術館、つくばセンタービル、西脇市岡之山美術館、東京都新都庁舎計画、ハラ・ミュージアム・アーク、水戸芸術館

展示室5 世界へ羽ばたく磯崎建築

ロサンゼルス現代美術館、ラ・コルーニャ人間科学館、ミュンヘン近代美術館、シュトゥットガルト現代美術館、カタールエデュケーションセンター

展示室6～9

磯崎氏の最近までの制作年表と言説年表、及び代表的な執筆本を展示

7.4. 現代美術作品- 大分市美術館所蔵- 常設展示

1960年代に国内外で活動した芸術家たちの作品を中心に大分市美術館の企画により、60年代ホールにおいて展示を行っている。展示作品は大分市美術館所蔵である。

【展示作品について】

今回は、60年代初頭に大分市出身の吉村益信とともに前衛グループ、ネオ・ダダの中心的存在であった篠原有司男に焦点をあてた。アクションペインティングやオートバイ彫刻、巨大ペインティングなど精力的な活動を続ける作者の活動を紹介した。

会期：平成18年2月7日(火)～平成19年1月末 場所：60'sホール

	作者名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	篠原 有司男	ダラス旅行	1983	280.5×838	アクリル・キャンバス
2	〃	バミューダ島のラオコーン	1998	180×600	アクリル・キャンバス
3	〃	モーターサイクル・ヴァン・ゴッホ	1991	210×240×96	木・カードボード・アクリル他
4	〃	ボクシングペインティング	1998	190×895	墨・キャンバス
5	ウィリアム・クライン	ネオダダグループのパフォーマンス写真	1961	31.3×45.6	ゼラチンシルバープリント
6	〃	ネオダダグループのパフォーマンス写真	1961	31.3×45.6	ゼラチンシルバープリント
7	〃	ネオダダグループのパフォーマンス写真	1961	31.3×45.6	ゼラチンシルバープリント
8	〃	ネオダダグループのパフォーマンス写真	1961	31.3×45.6	ゼラチンシルバープリント
9	〃	ネオダダグループのパフォーマンス写真	1961	31.3×45.6	ゼラチンシルバープリント
10	藤倉 明治	アクション彫刻を制作する篠原有司男1	1960	38.3×52.8	ゼラチンシルバープリント
11	〃	アクション彫刻を制作する篠原有司男2	1960	38.3×52.8	ゼラチンシルバープリント

7.5. 利用案内

利用時間・料金

開館時間 午前9時から午後10時まで（ただし3階磯崎新建築展示室は午後6時まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）。但し、毎月第1月曜日は開館しその翌日の火曜日が休館。年末年始（12月28日～1月3日）

使用料

	4月・5月・10月・11月料金	冷暖房期間中料金 (左記の月を除く期間)	
アートホール (427㎡)	1日 (9時～22時)	9,500円	13,300円
	1時間	1,150円	1,610円
研修室 (79㎡)	1時間	690円	960円
実技室 (77㎡)	1時間	210円	290円
市民ギャラリー (338㎡)	1日 (9時～22時)	7,500円	10,500円
A室 (236㎡)	1日 (9時～22時)	5,250円	7,350円
B室 (102㎡)	1日 (9時～22時)	2,250円	3,150円
磯崎新 建築展示室	観覧無料		

- 受付方法 ●使用日の6カ月前から受付を行う。
 ●ただし、芸術・文化活動以外の会議や研修などは3カ月前から受付を行う。
 ●また、5日以上連続して行う展覧会については、12カ月前から受付を行う。
 ●受付時間は、日曜日、祝日及び休館日を除く日の午前9時から午後5時まで。
 ●空き情報の問い合わせは、午前9時から午後10時まで対応。
 ●電話等による仮押えは不可。
 ●使用料は、使用許可の際に事務室の受付窓口で納入。
 ●大分市公共施設案内・予約システムによる利用は可。

- 交通案内 ・JR大分駅から徒歩10分
 ・バス 大分合同新聞社前下車
 ・車 大分自動車道／大分I.C. から15分

名称・所在地

アートプラザ
 〒870-0046 大分市荷揚町3番31号
 TEL 097-538-5000 FAX 097-538-5060

7.6. 利用状況

(単位：人)

	1F		2F				3F	総利用者数
	ギャラリーA	ギャラリーB	アートホール	研修室	実技室	60'sホール	新建築模型展	
10年度	17,209	14,532	22,398	8,370	1,937	3,607	7,498	75,551
11年度	12,733	10,707	17,600	4,326	3,280	1,663	5,398	55,707
12年度	19,595	15,979	49,831	3,890	3,450	1,454	7,499	101,698
13年度	16,974	11,674	25,298	5,042	4,329	13,111	7,046	83,474
14年度	20,234	15,972	43,515	5,774	4,180	14,510	6,661	110,846
15年度	31,332	24,909	34,215	6,267	4,587	10,126	4,871	116,307
16年度	36,298	31,276	42,928	9,064	4,505	6,730	6,287	137,088
17年度	35,518	35,125	36,161	9,138	3,846	4,676	6,829	131,293

7.7. アートプラザ条例

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206221.html

7.8. アートプラザ条例施行規則

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206231.html

7.9. アートプラザ管理規則

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206241.html